

# 久米才歩行遺跡

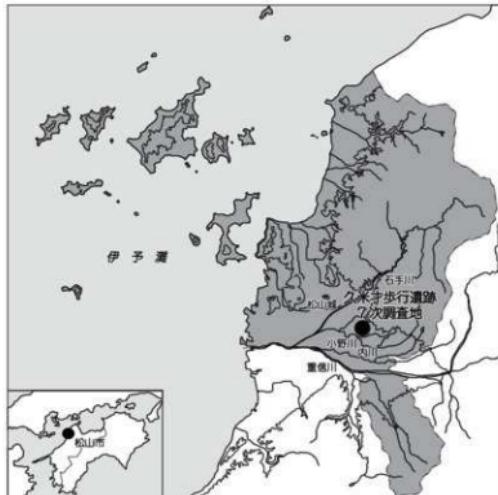
- 7 次調査 -

2015

松山市教育委員会  
公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團  
埋蔵文化財センター

く め さ い か ち い せ き  
**久米才步行遺跡**

- 7 次調査 -



2015

松山市教育委員会

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター



## 序　　言

本書は、平成13年度に実施した来住・久米地区における宅地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書です。この地区は、古代の寺院や役所等の遺跡群である国指定史跡「久米官衙遺跡群　久米官衙遺跡　来住廃寺跡」が所在することで知られており、全国的にも重要視されている地域です。

今回実施した久米才歩行遺跡7次調査からは、松山平野内でも検出例の極めて少ない弥生時代前期の竪穴建物や、同時期の土坑10基を発見しました。このうち、竪穴建物は長径3.2m、短径2.3mの楕円形で、建物内からは弥生時代前期末の土器が出土しました。古墳時代や古代では掘立柱建物址や溝、土坑を検出し、中世では溝を確認しました。とりわけ、奈良時代の溝は何らかの施設を区画するために掘削された可能性があり、久米才歩行遺跡一帯にも官衙に関連する遺構の存在を示唆する資料といえます。今回の調査により、久米官衙遺跡群北西域における集落構造や変遷を解明するうえで、貴重な資料を得ることができました。

このような成果を上げることができたのは、関係者の方々の埋蔵文化財行政に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、文化財保護、生涯教育及び埋蔵文化財調査研究の一助となり、末永くご活用いただければ幸いに存じます。

平成27年3月

松山市教育長　　山本　昭弘

## 例　　言

1. 本書は、財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが、平成13年度に松山市南久米町486-1内で実施した民間の宅地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書掲載の遺構は、呼称名を略号化して記述した。  
SB：竪穴建物、掘立：掘立柱建物、SD：溝、SK：土坑、SP：柱穴
3. 本書で使用した標高値はすべて海拔標高を示し、方位はすべて国土座標を基準とした真北である。
4. 基本層位や遺構埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1988)に準拠した。
5. 遺構の製図および遺物の実測・製図は水本完児の指示のもと、中村　紫、本多智絵、平岡直美、山下満佐子が行った。
6. 遺物の復元は水本の指示のもと、松本美代子、和泉順子、江島淳子、寺尾いづみが行った。
7. 遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
8. 写真図版と遺構撮影は水本と大西朋子が行い、遺物撮影および図版作成は大西が行った。
9. 本書の執筆は水本が担当し、編集は水本を中心に平岡の協力を得た。浄書は、中村が担当した。
10. 本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターで保管・収蔵している。
11. 報告書抄録は、巻末に掲載している。

# 本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査・刊行組織	
第2章 立地と歴史的環境.....	2
第1節 立地.....	2
第2節 歴史的環境	
第3章 調査の概要.....	7
第1節 調査の経緯.....	7
第2節 層位.....	9
第3節 遺構と遺物.....	15
1. 弥生時代の遺構と遺物 .....	15
2. 古墳時代の遺構と遺物 .....	23
3. 古代の遺構と遺物 .....	32
4. 中世の遺構と遺物 .....	33
5. その他の遺構と遺物 .....	34
第4章 調査の成果と課題.....	41

## 挿図目次

第 1 図 調査地周辺の主要遺跡分布図（縮尺 1 : 15,000）	4
第 2 図 久米才歩行遺跡分布図（縮尺 1 : 2,500）	7
第 3 図 調査地測量図（縮尺 1 : 500）	8
第 4 図 北壁土層図（縮尺 1 : 40）	10
第 5 図 東壁土層図（縮尺 1 : 40）	11
第 6 図 南壁土層図（縮尺 1 : 40）	12
第 7 図 西壁土層図（縮尺 1 : 40）	13
第 8 図 遺構配置図（縮尺 1 : 200）	14
第 9 図 SB1 測量図（縮尺 1 : 40）	15
第 10 図 SB1 出土遺物実測図（1）（縮尺 1 : 4）	16
第 11 図 SB1 出土遺物実測図（2）（縮尺 1 : 4）	17
第 12 図 SK4 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 4）	18
第 13 図 SK14 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 4）	19
第 14 図 SK3・5・9 測量図（縮尺 1 : 40）	20
第 15 図 SK12・15・16 測量図（縮尺 1 : 40）	21
第 16 図 SK18 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 4）	22
第 17 図 SK13 測量図（縮尺 1 : 40）	
第 18 図 挖立 1 測量図（縮尺 1 : 60）	23
第 19 図 挖立 1 出土遺物実測図（縮尺 1 : 4、1 : 3、1 : 2）	24
第 20 図 挖立 2 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 50、1 : 4、1 : 3）	26
第 21 図 SD2 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 3）	27
第 22 図 SK2 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 3）	
第 23 図 SK19 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 40、1 : 3）	28
第 24 図 SK6・7・11 測量図（縮尺 1 : 40）	29
第 25 図 SK1・8・10・17・20 測量図（縮尺 1 : 40）	31
第 26 図 SD1 測量図・出土遺物実測図（縮尺 1 : 100、1 : 3）	32
第 27 図 SD3 測量図（縮尺 1 : 40）	33
第 28 図 SD3 出土遺物実測図（縮尺 1 : 3）	35
第 29 図 柱穴出土遺物実測図（1）（縮尺 1 : 4、1 : 3）	37
第 30 図 柱穴出土遺物実測図（2）（縮尺 1 : 3）	38
第 31 図 第IV層出土遺物実測図（1）（縮尺 1 : 4）	
第 32 図 第IV層出土遺物実測図（2）（縮尺 1 : 3、1 : 2）	39
第 33 図 地点不明出土遺物実測図（縮尺 1 : 3、1 : 2）	40

## 表 目 次

表 1 調査地一覧	9
表 2 壓穴建物一覧	42
表 3 掘立柱建物一覧	
表 4 溝一覧	
表 5 土坑一覧	
表 6 柱穴一覧	43
表 7 SB1 出土遺物観察表（土製品）	48
表 8 SK4 出土遺物観察表（土製品）	
表 9 SK14 出土遺物観察表（土製品）	49
表 10 SK18 出土遺物観察表（土製品）	
表 11 掘立 1 出土遺物観察表（土製品）	
表 12 掘立 1 出土遺物観察表（装身具）	
表 13 掘立 2 出土遺物観察表（土製品）	
表 14 SD2 出土遺物観察表（土製品）	50
表 15 SK2 出土遺物観察表（土製品）	
表 16 SK19 出土遺物観察表（土製品）	
表 17 SD1 出土遺物観察表（土製品）	
表 18 SD3 出土遺物観察表（土製品）	
表 19 柱穴出土遺物観察表（土製品）	51
表 20 第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）	
表 21 第Ⅳ層出土遺物観察表（銭貨）	52
表 22 地点不明出土遺物観察表（土製品）	
表 23 地点不明出土遺物観察表（石製品）	

## 写真図版目次

図版 1	1. 調査前全景（北東より） 2. 表土掘削状況（北より） 3. 作業風景（西より）
図版 2	1. 東壁土層（西より） 2. 遺構検出状況（西より）
図版 3	1. 遺構完掘状況①（北西より）
図版 4	1. 遺構完掘状況②（西より） 2. SB1 完掘状況（北東より）

- 図版 5 1. SB1 遺物出土状況（南東より）  
2. SK4 完掘状況（南より）  
3. SK4 遺物出土状況（南西より）
- 図版 6 1. SK14・15 完掘状況（南より）  
2. SK3・9 完掘状況（南より）
- 図版 7 1. SK12 完掘状況（南より）  
2. SK16 完掘状況（南より）
- 図版 8 1. SK13 完掘状況（南より）  
2. 掘立 1 完掘状況（北西より）
- 図版 9 1. 掘立 1 SP233 遺物出土状況（北東より）  
2. 掘立 2 完掘状況（北東より）
- 図版 10 1. SD2 完掘状況（南より）  
2. SK2 完掘状況（北より）
- 図版 11 1. SK1・6 完掘状況（北東より）  
2. SK7 完掘状況（北東より）
- 図版 12 1. SK5・10・11 完掘状況（東より）  
2. SK8 完掘状況（北より）
- 図版 13 1. SD1 完掘状況（南より）  
2. SD3 完掘状況（南より）
- 図版 14 1. SD3 遺物出土状況①（南より）  
2. SD3 遺物出土状況②（東より）
- 図版 15 1. 出土遺物（SB1：1～3・8・12～14・16・20・21、SK4：22・24、SK14：26）
- 図版 16 1. 出土遺物（掘立 1：37～39・41、SD3：64・66～68、SP135：75、SP69：77、SP72：79、SP156：83）
- 図版 17 1. 出土遺物（SP205：88、第IV層：89・93・95・96・98・106～108、地点不明：115・116）

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

今回報告する久米才歩行遺跡7次調査は、宅地開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。調査は文化財保護法第57条の2(現93条)第1項の届出を受け、愛媛県教育委員会の指示に基づき行った。なお、調査地は埋蔵文化財包蔵地『No.126 南久米町遺跡（旧高畠遺物包含地）高畠遺物包含地』内に所在する。

久米才歩行遺跡は昭和63年度に1次調査が実施され、これまでに6度の発掘調査が行われている。この遺跡は久米官衙遺跡群が所在する来住台地の西方にあり、台地の北側を流れる堀越川の北岸に位置している。遺跡内では久米才歩行遺跡4次調査で出土した縄文時代晚期の土器片が最も古い時期の遺物であり、遺構は弥生時代前期が最も古く、古墳時代や古代、中世まで続く生活関連遺構や遺物が数多く発見されている。居住を示す竪穴建物や掘立柱建物は弥生時代前半をはじめ、古墳時代中・後期、古代、中世の各時代にあり、この地が居住域として利用されていたことが、近年の調査・研究の結果、明らかになっている。

## 第2節 調査・刊行組織

発掘調査は財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成13年度に実施した。調査における基礎的な整理作業は同年度に行なったが、本格的な整理作業と報告書作成作業は、公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターが平成26年度に実施した。

### (1) 調査組織 [平成13年度]

松山市教育委員会

教育長 中矢 陽三  
事務局 局長 大西 正氣  
次長 川口 岸雄  
企画官 一色 巧  
文化財課 課長 馬場 洋  
主幹 八木 方人  
副主幹 田城 武志

財團法人松山市生涯学習振興財團

理事長 中村 時広  
事務局 局長 二宮 正昌  
次長 江戸 孝  
次長 森 和朋  
埋蔵文化財センター  
般野部長 中川 隆  
専門監 野本 力  
調査係長 西尾 幸則  
調査員 水本 完児(調査担当)  
大西 朋子(写真担当)

## (2) 刊行組織〔平成26年度〕

松山市教育委員会	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
教育長 山本 昭弘	理事長 中山 紘治郎
事務局局長 桥田 二郎	事務局局長 中西 真也
企画官 関田 完二	次長兼総務部長 緒田 正彦
企画官 津田 慎吾	施設利用推進長 玉井 弘幸
文化財課 主幹 篠原 昭二	埋蔵文化財センター 所長兼考古館長 田城 武志
主査 楠 寛輝	調査・研究リーダー 山之内 志郎
	調査・研究リーダー 橋本 雄一
	主任 水本 完児(編集担当)
	大西 朋子(写真担当)

## 第2章 立地と歴史的環境

### 第1節 立 地

来住庵寺を含む久米官衙遺跡群は、松山平野の北東部に展開している。地質学的には、高繩山塊に源を発した小河川によって形成された洪積世の段丘・旧期扇状地堆積物上にあたる。東西3km、南北1.0～1.5kmほどの区域のうち、北を流れる堀越川と南の小野川によって挟まれた部分は川の浸食による段丘地形を辺縁とする微高地状の地形を呈している。遺跡群の中心域は北を流れる堀越川の段丘を背に、南側を蛇行して西に流れる小野川周辺の低地部を正面とする区域に立地している。この微高地南側区域では、これまで特に顕著な遺構は検出されておらず、官衙遺跡群の実質的な範囲は微高地の南辺と北の堀越川によって規定されていると考えられている。また、7世紀になると松山平野における政治的中心は、小野川をさらに遡った別の支流である堀越川の南に移動し、久米官衙遺跡群の中心域を形成するに至る。久米才歩行遺跡7次調査は堀越川の北側地域にあり、久米高畠遺跡とは堀越川を挟んだ位置にあたる。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、調査地が所在する来住・久米地区の遺跡分布を中心に述べることにする(第1図)。

#### 旧石器時代

旧石器時代の遺物は、この地区に限らず松山平野内では該期の遺構とともに出土した事例は知られておらず、数例ある資料も採集遺物であり、すべて単独での出土例である。来住・久米地区では、鷹子町五郎兵衛谷古墳群の調査に伴い出土したサヌカイト製の角錐状形石器、久米窪田V遺跡出土の角

錐状形石器のほか、平井町山田池で採集されたナイフ形石器などの数例が知られているのみで、いずれも遺構に伴っていない。

### 縄文時代

確実な遺構とともに遺物が出土するのは、後期中頃以降である。数少ないこの時期の良好な一括遺物としては、久米窪田森元遺跡で検出された土坑出土の土器群がある。近隣の久米窪田Ⅰ遺跡でも同時期の遺物が出土しており、これらの遺物は小型方形建物に伴うものとされている。晩期では、近年になり来住台地上での遺構・遺物の検出が注目される。久米高畠遺跡36次調査では、晩期前葉の土器群を伴なう円形堅穴建物1棟が検出されているほか、同エリア内の久米高畠遺跡26次・35次調査でも同時期の土坑が検出されており、該期の資料が稀薄な松山平野にあっては貴重な事例といえる。晩期末の比較的良好な例としては南久米片廻り遺跡2次調査検出の土器群があり、朱塗りの壺と刻目凸帯を有する深鉢が出土している。これは、斜面堆積で明確な遺構に伴うものではないが、検出状況等にまとまりがみられ、一括性の高い遺物群である。なお、久米才歩行遺跡では、4次調査において晩期の土器片が数点出土している。

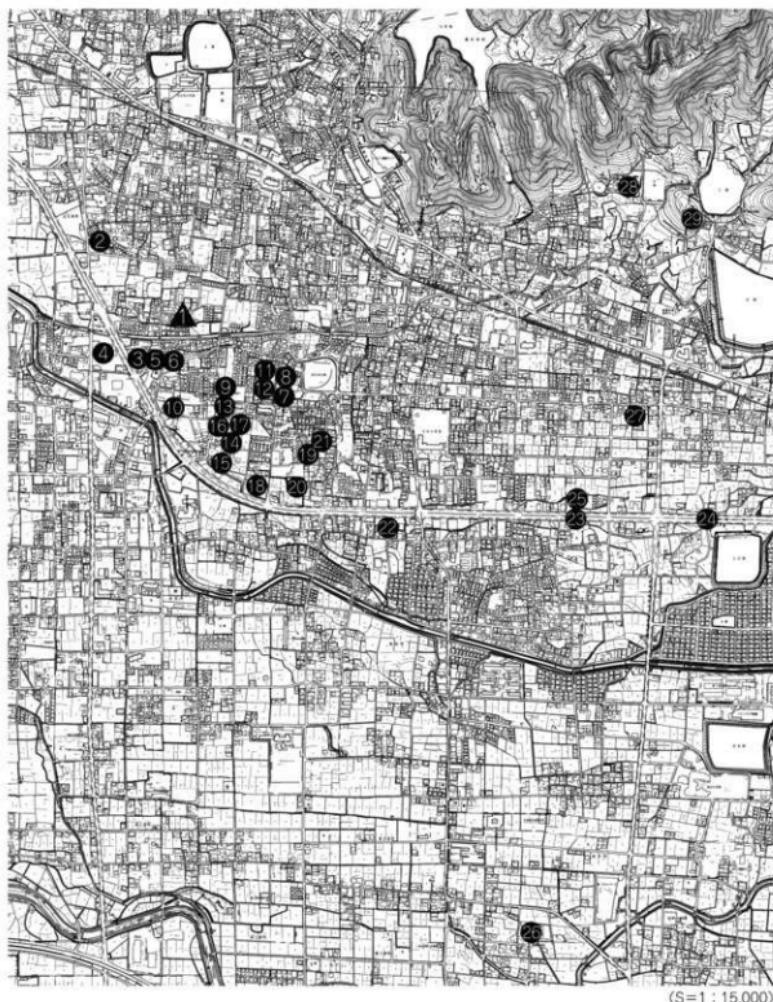
### 弥生時代

縄文時代には点在した遺跡の分布も、弥生時代になると面的な広がりを持ち、その数も大幅に増加する。の中でも最も注目されるのが、来住台地上に展開する前期末から中期初頭の集落である。このエリアにおける弥生時代の遺跡は前期末から後期まで継続しているが、その盛期は前期末から中期初頭の段階にある。集落は少数の円形堅穴建物と数多くの無柱長方形堅穴と土坑などによって構成されているが、近年の調査（久米高畠遺跡23次・25次・28次・29次調査）や過去の来住V遺跡と来住庵寺20次調査などの調査成果をあわせると、同時期併存の環濠を複数伴う可能性が高くなっている。なお、久米才歩行遺跡では、2次調査にて前期末の堅穴建物や土坑が検出されている。

中期の良好な資料は現在のところ少ないが、中期後半あるいは後期初頭、凹線文段階の遺物が出土する遺跡はいくつかある。来住庵寺15次調査では、台地縁辺部の落ち際に投棄された状況で多数の凹線文段階の遺物が出土している。の中には完形に復元できる土器が多数含まれており、良好な一括資料とされている。ただし、台地上では該期の遺構は稀薄であり、集落展開については未だ不明な部分が多い。なお、久米才歩行遺跡では、1次調査にて包含層資料ではあるが中期前葉から末段階の土器滲りが検出されている。後期の集落は、面としての広がりは把握されていないのが現状であるが、単発的に遺構が検出される例はいくつかある。南久米片廻り遺跡検出の円形堅穴建物からは、終末期の土器とともに鉄鎌が1点出土している。また、久米高畠遺跡10次・27次・58次調査では遺構が確認されており、久米官衙遺跡群から遺跡群周辺の微高地上には弥生時代を通して集落が営まれたことがわかる。

### 古墳時代

まず、古墳であるが、前期の古墳は確認されていないものの中期から後期の大型古墳が多数所在している。鷹子町に所在する素戔神社古墳は、直径約30mを測る松山平野でも最大規模の円墳とされている。平地部に眼を転ずると、高井町の波賀部神社古墳、北久米町の二ツ塚古墳（北久米遺跡）の



- |                 |                 |                 |                  |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|
| ▲ 久米才歩行遺跡 7 次調査 | ○ 二ツ塚古墳         | ● 南久米片廻り遺跡      | ○ 南久米片廻り遺跡 2 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 7 次調査  |
| ○ 久米高畠遺跡 10 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 23 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 25 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 26 次調査  | ○ 久米高畠遺跡 27 次調査 |
| ○ 久米高畠遺跡 28 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 29 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 35 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 36 次調査  | ○ 久米高畠遺跡 58 次調査 |
| ○ 久米高畠遺跡 60 次調査 | ○ 久米高畠遺跡 64 次調査 | ○ 朱住魔寺 15 次調査   | ○ 朱住魔寺 21 次調査    | ○ 朱住魔寺 24 次調査   |
| ○ 朱住魔寺 37 次調査   | ○ 朱住町遺跡 8 次調査   | ○ 久米塙田 I 遺跡     | ○ 久米塙田 V 遺跡      | ○ 久米塙田森元遺跡      |
| ○ 波賀部神社古墳       | ○ タンチ山古墳        | ○ 五郎兵衛古墳        | ○ 羽籠神社古墳         |                 |

第1図 調査地周辺の主要遺跡分布図

ほか現在では消滅してしまったが鷹子町タンチ山（双子塚）古墳など、松山平野では数少ない後期の前方後円墳が数多く分布する地域である。これらの大型古墳は、久米官衙遺跡群をはじめとする拠点的な集落を担った首長層の墳墓として注目される。古墳時代には久米地域に久米郡が設置され、久米国造が置かれるなど、畿内王権と密接な関係を持っていたと推測される。

集落では来住町遺跡8次調査、久米高畠遺跡10次・26次・35次・60次・64次調査において古墳時代中期から後期の堅穴建物や掘立柱建物、土坑、溝が検出されているほか、久米高畠遺跡64次調査では、一辺7.0mを超える後期の大型堅穴建物1棟を検出した。これらのことから、7世紀代になり来住台地上に展開する官衙遺跡群や古代寺院成立の基盤となった地方豪族の存在が挙げられる。なお、久米才歩行遺跡では、中期後半から後期にかけての堅穴建物や掘立柱建物が検出されている。

### 古代

国指定史跡として知られる来住庵寺をはじめとして、官衙関連を多数検出している久米高畠遺跡がある。久米高畠遺跡は調査事例が70次を超え、寺院・官衙施設の構造も次第に解明されつつある。久米官衙遺跡群の調査は、白鳳寺院址とされる来住庵寺の調査が契機となって始められ、その後の調査の進展とともに、寺院隣接部分にある方一町規模の「回廊状遺構」をはじめ、台地上に方一町規模の区割りの存在することが明らかとなった。台地北部にある半町規模の方形区画城内部における近年の調査では、政府としての姿を整えた建物配置が確認されている。以前より推定されていたことではあるが、久米高畠遺跡7次調査において「久米評」線刻須恵器が出土していることから、この区画城が評衡政府であることがより確定的なものとなった。そればかりでなく、その成立が評判以前の7世紀前半の段階である可能性が高くなったことも注目される成果である。また、その南西部では8世紀以降の段階で成立した濠で囲われた正倉院の発見等もあり、平野内ではきわめて重要な遺跡群である。

久米才歩行遺跡では、3次調査において7世紀代の掘立柱建物が検出されたほか、4次調査からは自然流路、2次・3次調査からは8世紀代の溝が確認されている。

### 中世

鎌倉時代以降、久米官衙遺跡群の所在する微高地では、密度は低いものの中世の遺構が発見されている。来住庵寺金堂基壇から北東に90m程離れた地点にある来住庵寺21次調査(平成5年度調査)や来住庵寺37次調査(平成22年度調査)では、複数の掘立柱建物が重複して建てられていることが判明したほか、来住庵寺金堂基壇の南東に隣接する地点で実施した来住庵寺24次調査(平成7年度調査)からは、中世後期から末期頃の屋敷跡の一部が確認されている。

なお、久米才歩行遺跡では中世段階の遺構・遺物が最も多く検出されており、3次・4次調査からは15～16世紀代の掘立柱建物や井戸が検出され、6次調査では13世紀代の土坑墓が確認されている。

### 近世

遺跡群南部にある国道11号線北側の隣接地では、近世墓がまとまって確認されている。来住庵寺15次調査において確認された土坑墓には、17世紀前半の肥前系陶器が副葬されていた。また、金堂基壇以南にも近世の遺構が発見されている。来住庵寺金堂基壇北東隣接地には平成11年度まで長隆寺という寺院が営まれていた。長隆寺は江戸時代前期の天和3(1683)年に開山したと伝えられており、

来住庵寺の発掘調査に伴なって土壙跡や本堂基壇跡などが検出されている。なお、来住庵寺金堂基壇から長隆寺旧境内地においては、黄橙色粘土による造成土層が広く堆積しており、粘土層の下層には江戸時代末期の遺物を多く包含する灰褐色土が堆積している。これらの堆積状況から、来住庵寺金堂基壇の周囲において幕末期から明治時代初期に大規模な土地の改変が行われたことがわかる。

## 【参考文献】

- 森 光晴 1978 「五郎兵衛谷古墳」松山市文化財調査報告書第13集
- 阪本 安光 他 1981 「久米窪田V遺跡」「一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書」第6集
- 吉本 技 他 1981 「久米窪田I遺跡」「一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書II」第5集
- 吉本 技 他 1981 「来住V遺跡」「一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書II」第5集
- 松山市教育委員会 1982 「波賀郡神社古墳」「古代の松山平野 先土器時代～平安時代」
- 宮崎 泰好 1989 「久米才歩行遺跡1次調査」「松山市埋蔵文化財調査年報II」
- 松村 淳 1991 「南久米片廻り遺跡2次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報III」
- 水本 完児 1993 「来住庵寺21次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報V」
- 西尾 幸則 1993 「来住庵寺15次調査」「松山市文化財調査報告書第34集」
- 水本 完児 1994 「来住庵寺20次調査地」「来住・久米地区的遺跡II」「松山市文化財調査報告書第44集」
- 橋本 雄一 1995 「久米高烟遺跡23次調査」「松山市埋蔵文化財調査年報VI」
- 1997 「久米高烟遺跡28・29次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報VII」
- 1998 「久米高烟遺跡36次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報X」
- 相原 秀仁 2013 「来住町遺跡8次調査地」「松山市文化財調査報告書第161集」
- 高尾 和長 2003 「久米高烟遺跡-25次調査-」「松山市文化財調査報告書第93集」
- 河野 史知 2004 「久米高烟遺跡35次調査地」「来住・久米地区的遺跡V」「松山市文化財調査報告書第101集」
- 高尾 和長 2004 「久米才歩行遺跡2次調査地」「来住・久米地区的遺跡IV」「松山市文化財調査報告書第100集」
- 相原 秀仁 2004 「久米高烟遺跡10次・27次調査地」「来住・久米地区的遺跡V」  
松山市文化財調査報告書第101集
- 小笠原 彰 2004 「久米高烟遺跡58次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報16」
- 田内 真由美 2004 「久米高烟遺跡60次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報16」
- 橋本 雄一 2005 「久米高烟遺跡64次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報17」
- 宮内 慎一 2005 「久米才歩行遺跡3次調査地」「来住・久米地区的遺跡VI」「松山市文化財調査報告書第108集」
- 加島 次郎 2005 「久米才歩行遺跡4次調査地」「来住・久米地区的遺跡VI」「松山市文化財調査報告書第108集」
- 小笠原善治 2005 「久米才歩行遺跡5次調査地」「来住・久米地区的遺跡VI」「松山市文化財調査報告書第108集」
- 高尾 和長 2007 「北久米遺跡4次調査地(二ツ塚古墳)」「松山市埋蔵文化財調査年報19」
- 山之内志郎 2007 「北久米遺跡6次調査地(二ツ塚古墳)」「松山市埋蔵文化財調査年報19」
- 梅木 謙一 2008 「久米高烟遺跡-26次調査-」「松山市文化財調査報告書第127集」
- 橋本 雄一 2009 「久米高烟遺跡1次・7次調査 政府の発掘調査2」「松山市文化財調査報告書第136集」
- 山之内志郎 2010 「来住庵寺37次調査地」「松山市埋蔵文化財調査年報22」
- 重松 佳久 2010 「タンチ山(双子塚)古墳」「松山市文化財調査報告書第140集」
- 栗田 茂敏 2011 「久米窪田古屋敷遺跡」「松山市文化財調査報告書第148集」
- 栗田 茂敏 2012 「久米窪田森元遺跡」「南久米片廻り遺跡・久米窪田森元遺跡」「松山市文化財調査報告書第157集」
- 水本 完児 2013 「久米才歩行遺跡6次調査・南久米窪院遺跡1次調査」「松山市文化財調査報告書第163集」
- 相原 浩二 2013 「南久米窪院遺跡2次調査」「松山市文化財調査報告書第163集」

## 第3章 調査の概要

### 第1節 調査の経緯

#### 1. 調査に至る経緯（第2・3図、表1）

2000（平成12）年11月、武智サカエ氏（申請者）より松山市南久米町486-1番地内における宅地開発工事に伴う埋蔵文化財の確認願が松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。申請地周辺では、平成12年度までに久米才歩行遺跡として6度の調査が行われている。申請地南西側には久米才歩行遺跡1次・3次・4次調査地、北側には2次調査地、北東側には5次調査地、東側には6次調査地があり、弥生時代から近世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

これらのことから、当該地における埋蔵文化財の有無と遺跡の範囲や性格を確認するため、2000（平成12）年12月1日、財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）は試掘調査を実施した。調査の結果、堅穴建物や溝、土坑、柱穴を検出し、遺物は土師器片と須恵器片を確認した。

この結果を受け、申請者と文化財課の両者は遺跡の取り扱いについて協議を行い、宅地開発工事によって消失する遺跡に対し、記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査は、弥生時代から近世までの集落構造解明を主目的とし、文化財課の指導のもと、埋文センターが主体となり、2001（平成13）年6月18日より開始した。



第2図 久米才歩行遺跡分布図

## 2. 調査の経緯

発掘調査は、2001（平成13）年6月18日から同年9月14日までの間に実施した。以下、調査工程を略記する。

2001（平成13）年6月18日、調査区域を設定し、調査を開始する。重機で第V層上面までを掘削し、排土は場外搬出した。7月4日より遺構検出作業を開始し、堅穴建物や溝、土坑、柱穴を検出する。7月16日より遺構の掘り下げに約1ヶ月間を費やし、8月16日に終了する。8月20日より遺構の測量作業を開始し、9月3日に終了する。9月4日、調査区を一部拡張し、遺構検出や掘り下げ、測量作業を行う。9月11日、高所作業を使用して、遺構の完掘状況写真を撮影する。9月12日より作成した遺構図や土層図の補足・修正等を行い、9月13日に終了する。9月14日、発掘用具や機材を撤去し、屋外調査を終了する。

## 3. 調査組織

所在地：松山市南久米町486-1

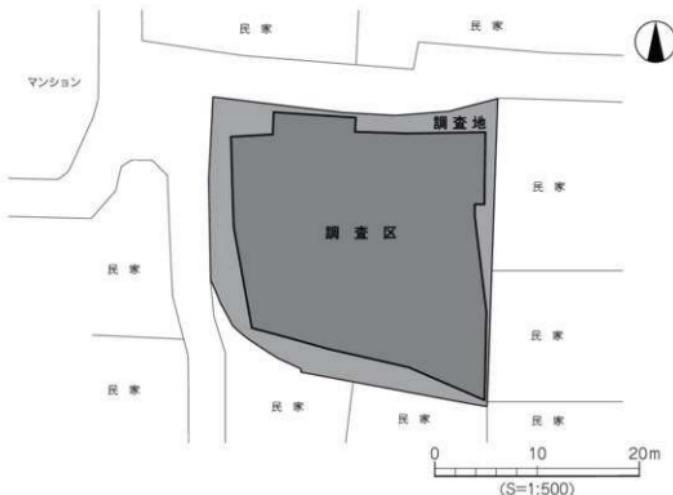
調査期間：2001（平成13）年6月18日～同年9月14日

調査面積：710.97m<sup>2</sup>

契約者：武智 サカエ

調査主体：財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

調査担当：埋蔵文化財センター調査員 水本 完児



第3図 調査地測量図

## 第2節 層位 (第4~7図、図版2)

調査地は、堀越川下流域の右岸に位置する。調査以前には、水田として利用されていた。現況の標高は、33.8~33.9mである。調査で確認した土層は、以下の5層である。

第I層：水田耕作に伴う耕作土。灰白色土（N7/）で、層厚10~30cmである。

第II層：水田耕作に伴う底土で、2種類に分層される。

II①層-にぶい橙色土（5YR 7/4）に灰白色土（N7/）がブロック状に混入するもので、調査区ほぼ全域に分布し、層厚3~6cmである。

II②層-にぶい橙色土（5YR 7/4）で調査区内に部分的にみられ、層厚2~5cmである。

第III層：土色の違いにより、2層に分層される。

III①層-灰オリーブ色土（5Y 5/2）で調査区北東部と南西部に分布し、層厚5~20cmである。

III②層-灰オリーブ色土（5Y 5/2）に黄色土（2.5Y 8/6）がブロック状に混入するもので、調査区南東部に分布がみられ、層厚6~20cmである。

第IV層：土色の違いにより、2層に分層される。

IV①層-黒褐色土（2.5Y 3/2）で調査区北西部に分布し、層厚3~15cmである。本層中からは、弥生土器や土師器、須恵器が出土した。

IV②層-黒褐色土（2.5Y 3/2）に黄色土（2.5Y 8/6）がブロック状に混入するもので、調査区東部に分布し、層厚5~15cmである。

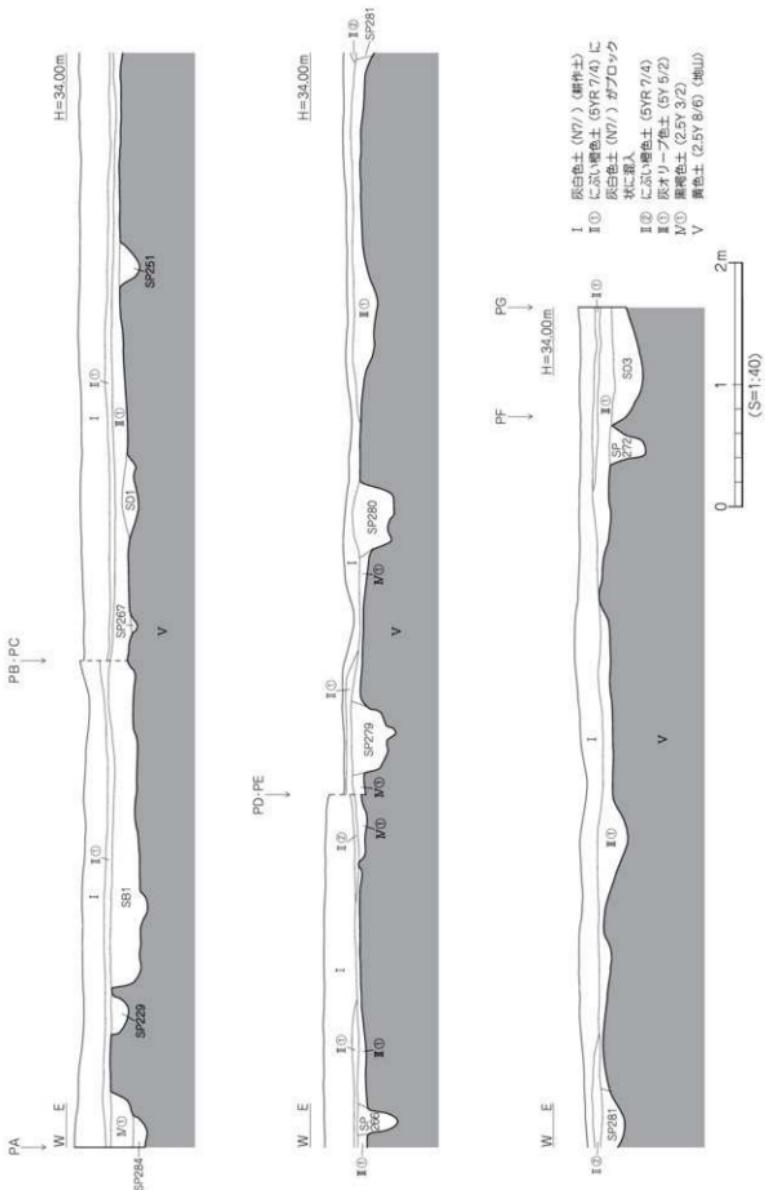
第V層：黄色土（2.5Y 8/6）で、調査区全域に分布する。本層上面が調査における最終遺構検出面である。なお、本層上面の標高を測量すると33.5m前後であるが、調査区南東部は自然流路SR1が存在したため、調査区南東隅では32.9mである。

調査では堅穴建物1棟（弥生時代）、掘立柱建物2棟（古墳時代）、溝3条（古代・中世）、土坑20基（弥生時代・古墳時代）、柱穴296基を検出した（第8図）。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器〔備前焼・青磁〕、瓦、錢貨のほか石器や白玉が出土した。遺物の出土量は、収納用テンバコ（44×60×14cm）30箱分である。検出遺構や出土遺物より第IV層は古墳時代、第III層は古代までに堆積した土層と考えられる。なお、調査にあたり調査区内を4m四方のグリッドに分けた。グリッドは北から南へA・B・C···G、西から東へ1・2・3···7とし、A1・A2・A3···G7といったグリッド名を付した（第8図）。

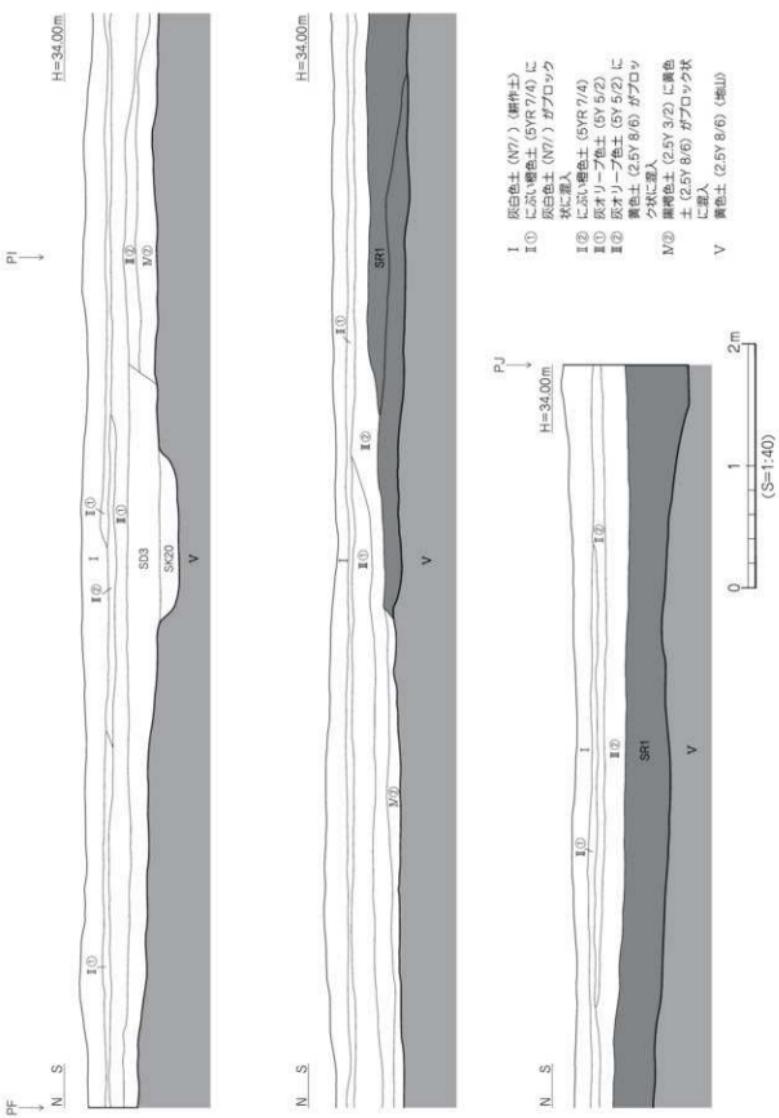
表1 調査地一覧

調査名	所在地	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査要因
久米才歩行(1次)	南久米町 503番1, 504番3	S63.10.26~12.24	679.00	民間開発
久米才歩行(2次)	南久米町 476番1・2, 475番3	H8.11.12~H9.1.31	3,361.91	民間開発
久米才歩行(3次)	南久米町 484番1	H9.9.1~10.31	496.32	民間開発
久米才歩行(4次)	南久米町 485番1・3・4	H10.10.1~11.30	1,095.00	民間開発
久米才歩行(5次)	南久米町 468番1	H11.4.8~6.30	790.31	民間開発
久米才歩行(6次)	南久米町 487番2	H11.9.20~H12.1.31	286.82	国庫補助
久米才歩行(7次)	南久米町 486番1	H13.6.18~9.14	710.97	民間開発

調査の概要

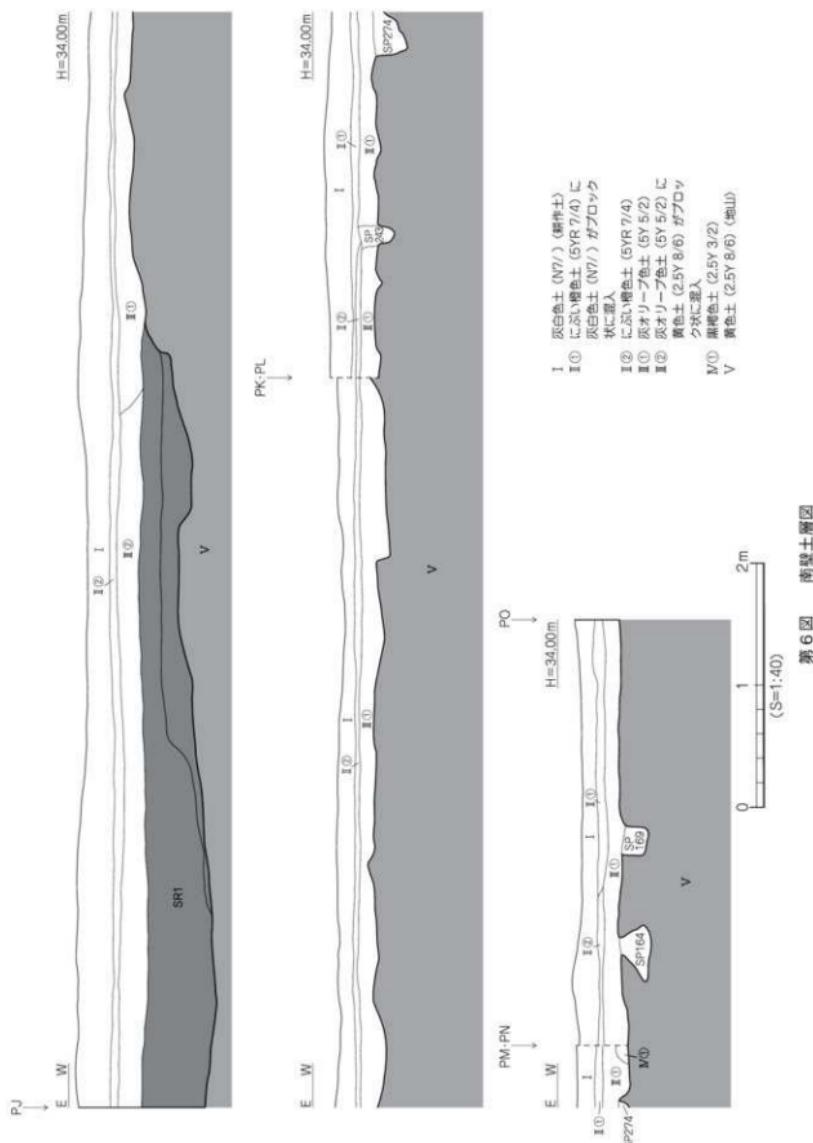


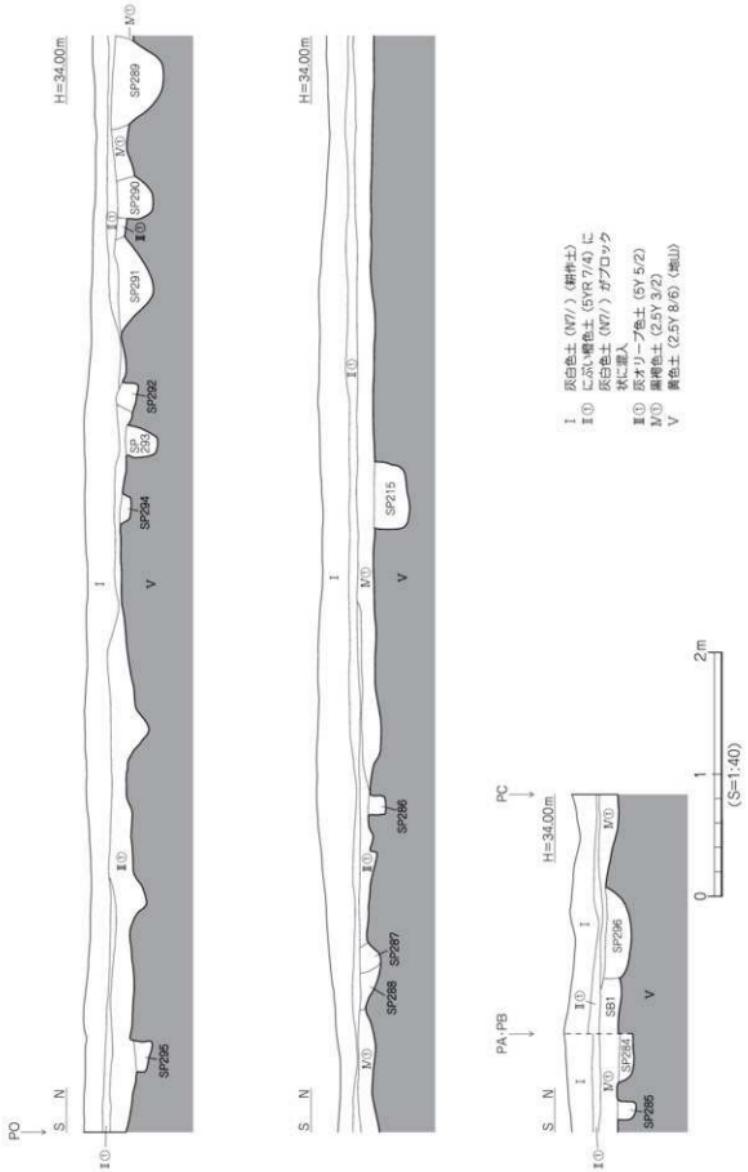
第4図 北壁土層図



第5図 東瀬土層図

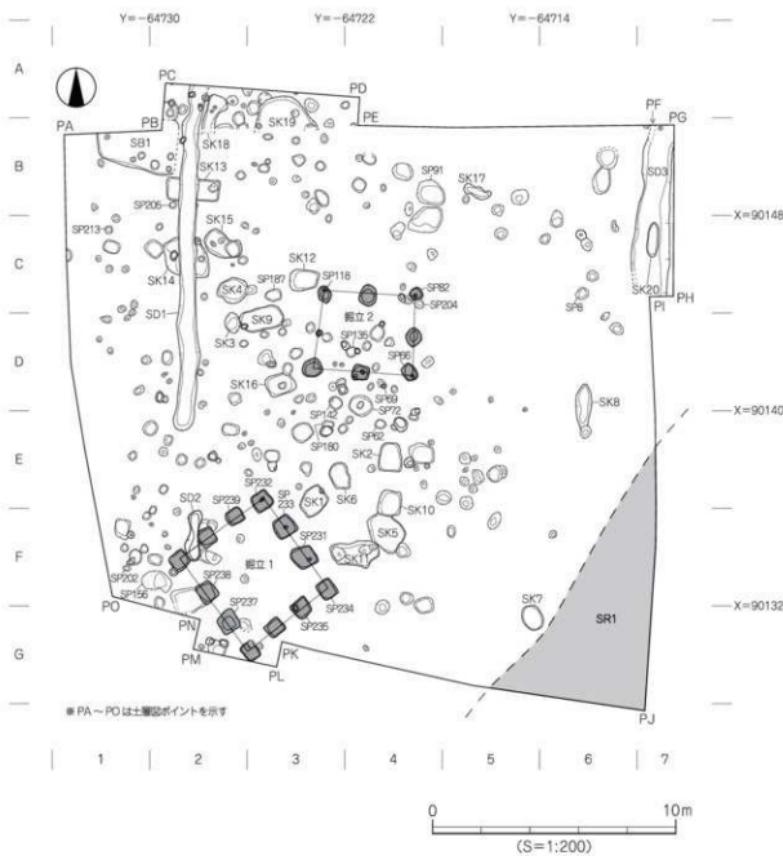
調査の概要





西壁土層圖

調査の概要



第8図 造構配置図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は竪穴建物1棟、土坑10基を検出した。

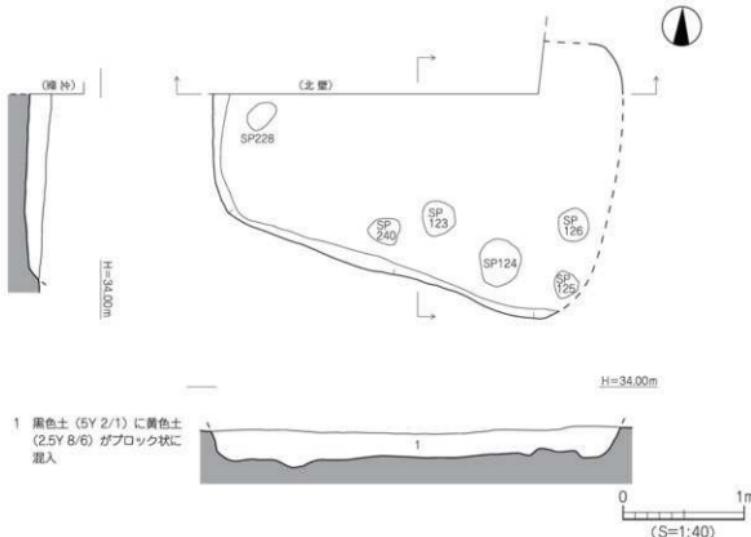
##### (1) 竪穴建物

###### S B 1 (第9図、図版4・5)

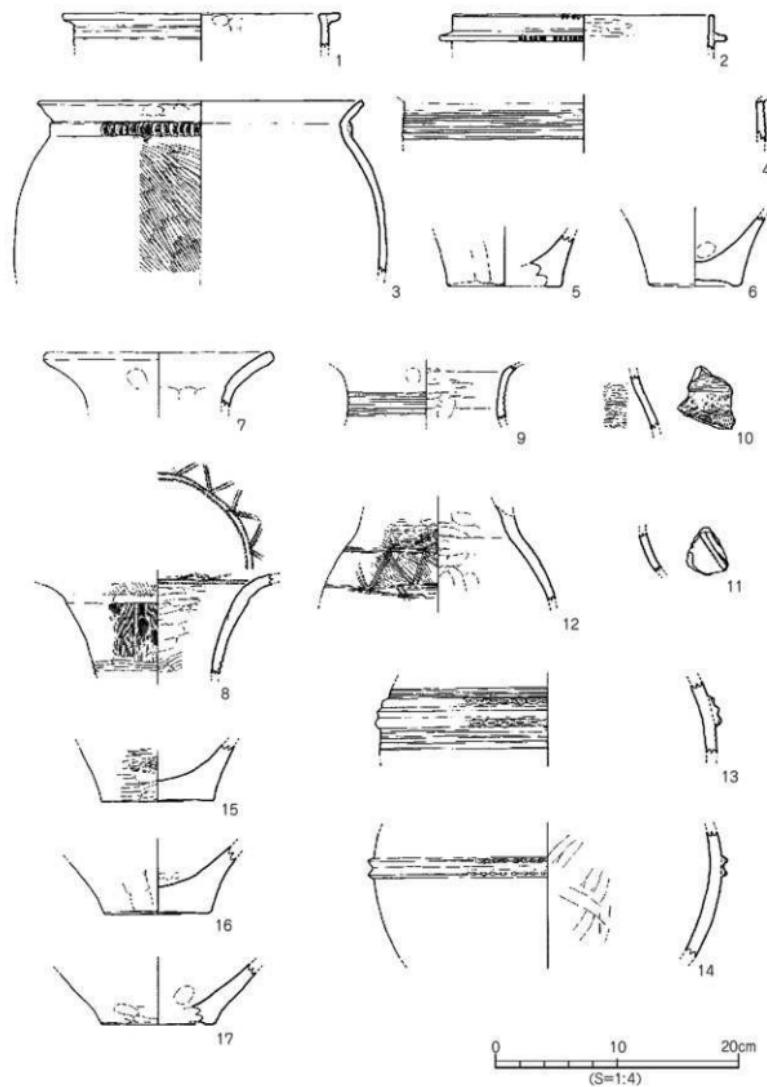
調査区北西部B1・2区で検出した竪穴建物で、建物東側は消失し、北側は調査区外に続く。第V層上面での検出であり、第II①層が覆う。遺構検出時、建物上面にて6基の柱穴〔SP124～126・228・240:暗褐色土、SP123:褐色土〕を検出している。建物の平面形態は梢円形をなすものと思われ、規模は東西検出長3.25m、南北検出長2.30m、壁高は25cmである。建物埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。建物底面には凹凸がみられ、東側から西側に向けて緩やかな傾斜をもつ。遺物は建物南東部に集中しており、弥生土器や川原石のほか縄文土器片が数点出土した。

###### 出土遺物 (第10・11図、図版15)

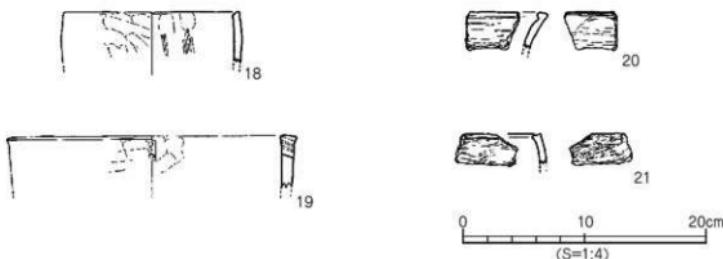
1～6は壺形土器。1は貼付による口縁部を成形するもので、胴部にヘラ描き沈線文3条を施す。2は口唇部より下がった位置に粘土紐を貼付けて口縁部を成形するもので、口縁端部に刻目を施す。内面には、ヨコ方向のヘラミガキ調整を加える。3・4は大型品。3は推定口径26.4cmで、口縁部は折曲



第9図 S B 1 測量図



第10図 SB 1 出土遺物実測図 (1)



第11図 SB1出土遺物実測図(2)

により成形されており、頸部に凸帯を貼付け、凸帯上に布目痕の残る押圧を加える。胴部外面には、ナナメ方向のヘラミガキ調整を施す。4は胴部片で、櫛描き沈線文6条以上を施す。5・6は壺形土器の底部で、5は平底、6はわずかに上げ底である。7～17は壺形土器。7は広口壺の口縁部片で、口縁端部は丸く仕上げる。8は長頸壺の頸部片で外面にはヘラ描き沈線文2条、内面は貝殻による沈線文と山形文を施す。外面にはハケメ調整、内面はヨコないしナナメ方向のヘラミガキ調整を施す。9は広口壺の頸部片で、ヘラ描き沈線文5条以上を施す。10～12は肩部片。10・11はヘラ描き沈線文3条が描かれ、12は肩部上位にヘラ描き沈線文2条、下位に1～2条の沈線文が描かれ、沈線文間に2条1対の工具による山形文が施される。外面はハケメ調整後、ヘラミガキを加える。13・14は胴部片。M字状の凸帯を貼付け、13は凸带上に連鎖状刻目文(凸带上に押圧を加え、さらに刻目を施す)2条、14は刻目を施す。15～17は底部。15・16はわずかに上げ底、17は平底となる。なお、15の外面にはヨコ方向の丁寧なヘラミガキが施される。18はジョッキ形土器。体部は内湾して立ち上がり、口縁端部は内傾する。外面はナデ調整、内面にはヘラミガキを加える。19は鉢形土器。直口口縁で、口縁部に0.5cm大の円孔を3箇所穿つ。20・21は縄文時代後期の深鉢片。20の口縁部内面には沈線が巡り、21の口縁部は内傾する面をなす。20の内外面にはヘラミガキ調整、21の内面はヘラミガキ、外面には条痕が残る。

**時期:** 出土遺物には多少の時期幅が認められるが、SB1の廃棄・埋没時期は弥生時代前期末と考えられる。

## (2) 土坑

調査で検出した土坑は10基であり、平面形態で分類すると円～楕円形を呈する土坑8基(SK3・4・5・9・12・14・15・16)と長方形2基(SK13・18)である。ここでは平面形態別に、詳細を報告する。

## 1) 円・楕円形土坑

## S K 4 (第12図、図版5)

調査区北西部C2区で検出した土坑で、土坑東側は柱穴SP208(灰褐色土)に削平されている。平面形態は東西に長い楕円形で、規模は長径1.21m、短径1.05m、深さ14cmである。断面形態は逆台形状であるが、土坑南半部の壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面には凹凸があり、北東部から南西部に向けて傾斜をなす。遺物は埋土中位付近より、弥生土器片が少量出土した。

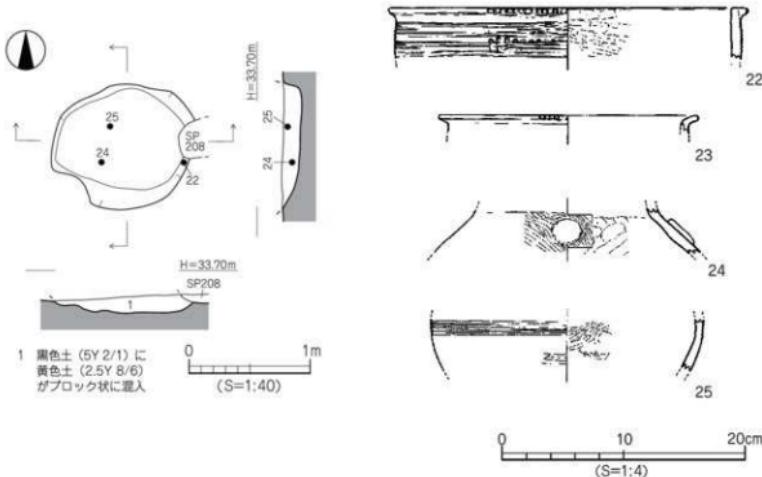
## 出土遺物 (図版15)

22・23は壺形土器。22は貼付により口縁部を成形するもので、口縁端部に刻目、胴部外面にはヘラ描き沈線文10条と半截竹管文1列を施す。器面調整は外面がヨコナデ、胴部内面はヨコ方向へのヘラミガキである。23は折曲口縁で、口縁端部に刻目を施す。小片。24・25は壺形土器。24は肩部片で、径2.8cm大の円形浮文を貼付ける。25は胴部片で、ヘラ描き沈線文4条が描かれている。24・25共に、外面にはヘラミガキ調整を施す。

時期：出土遺物の特徴より、弥生時代前中期と考えられる。

## S K 14 (第13図、図版6)

調査区北西部C2区で検出した土坑で、土坑中央部は溝SD1(8世紀)に削平されている。なお、遺構検出時には土坑上面にて3基の柱穴〔SP119・189:暗褐色土、SP120:褐色土〕を検出している。平面形態は不整の楕円形で、規模は長径2.16m、短径1.67m、深さ24cmである。断面形態は逆台形



第12図 S K 4測量図・出土遺物実測図

状であるが、土坑西側壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒色土（5Y 2/1）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面は平坦であるが、西側部分は傾斜をなす。遺物は埋土中位付近より弥生土器片が数点出土したが、國化しうる遺物を1点掲載した。

#### 出土遺物（図版 15）

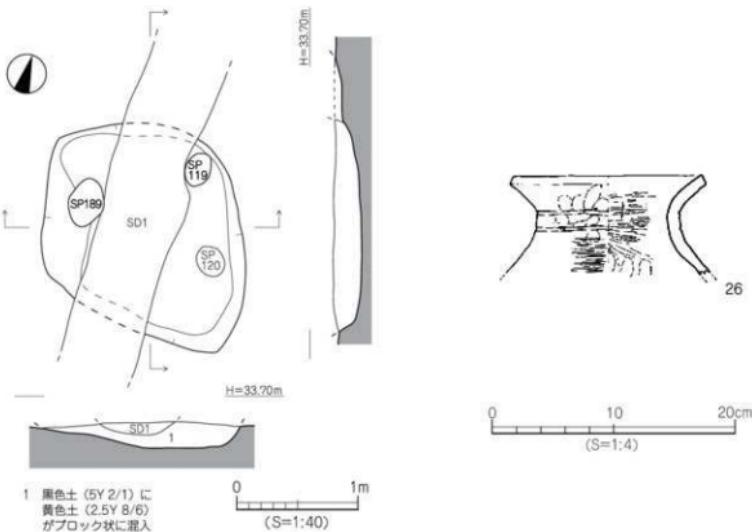
26は広口壺で、口縁部は外反し、口縁端部は「コ」字状をなす。頸部には、ヘラ描き沈線文2条が施されている。なお、頸部内外面にはヨコ方向の丁寧なヘラミガキ調整が見られる。

時期：出土遺物は僅少であるが、弥生時代前期末と考えられる。

#### S K 3（第14図、図版6）

調査区中央部西寄りD2区で検出した土坑で、平面形態は南北方向に長い楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.57m、深さ33cmである。断面形態は逆台形状で、埋土は黒色土（5Y 2/1）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面は丸みを帯び、壁体は比較的緩やかに立ち上がる。土坑内から、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前期末と考えられる。



第13図 S K 14測量図・出土遺物実測図

## SK 5 (第14図、図版12)

調査区中央部南寄りF4区で検出した土坑で、北側及び南西部はSK10とSK11に削平されている。平面形態は北西-南東方向に長い不整の楕円形で、規模は長径1.75m、短径1.25m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面は中央部がやや高く、壁体に向かって傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前末とを考えられる。

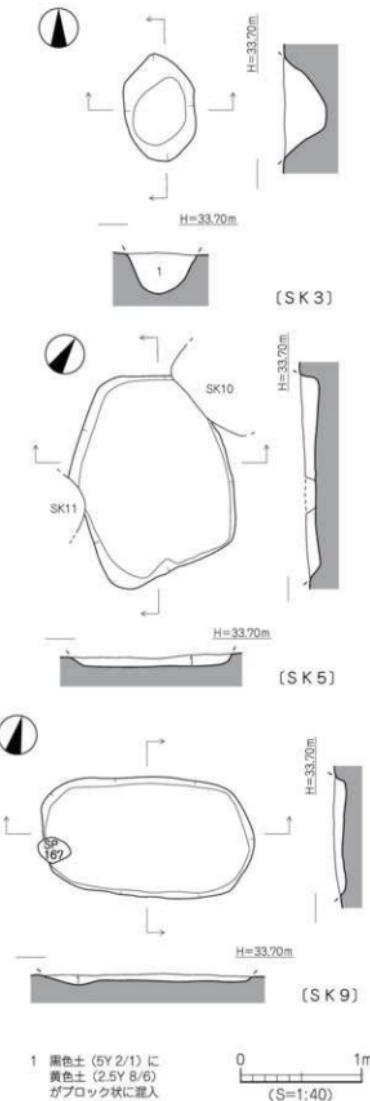
## SK 9 (第14図、図版6)

調査区中央部西寄りC2～D3区で検出した土坑で、土坑西側は柱穴SP167(暗褐色土)に削平されている。平面形態は東西方向に長い楕円形で、規模は長径1.74m、短径0.98m、深さ10cmである。断面形態は逆台形状で、埋土は黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面は中央部がやや高く、壁体に向かって傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前末とを考えられる。

## SK 12 (第15図、図版7)

調査区中央部北西寄りC3区で検出した土坑で、平面形態は東西方向に長い不整の楕円形で、規模は長径1.25m、短径0.90m、深さ28cmである。断面形態は逆台形状であるが、西側壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面は、



第14図 SK 3・5・9測量図

北西部から南東部に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

**時期：**出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前期末と考えられる。

#### S K 15 (第15図、図版6)

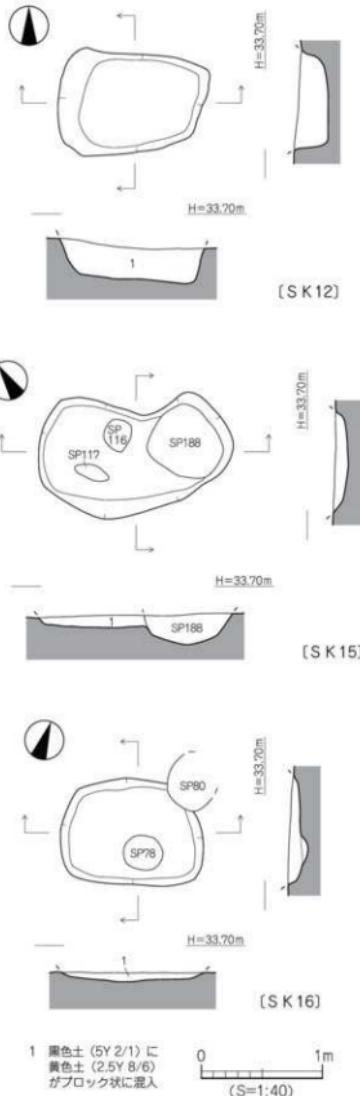
調査区北西部C2区で検出した土坑で、土坑東側は柱穴SP188(暗褐色土)に削平されている。また、遺構検出時、土坑上面にて2基の柱穴〔SP116・117：暗褐色土〕を検出している。平面形態は北西-南東方向に長い不整の楕円形で、規模は長径1.60m、短径0.96m、深さ8cmである。断面形態は逆台形状で、埋土は黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面は、中央部に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

**時期：**出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前期末と考えられる。

#### S K 16 (第15図、図版7)

調査区中央部西寄りD3区で検出した土坑で、土坑北東部は柱穴SP80(暗褐色土)に削平されている。また、遺構検出時、土坑上面にて柱穴SP78(暗褐色土)を検出している。平面形態は東西方向に長い楕円形で、規模は長径1.16m、短径0.88m、深さ7cmである。断面形態は逆台形状であるが、壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面は、中央部に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

**時期：**出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、概ね弥生時代前期末と考えられる。



第15図 SK 12・15・16測量図

## 2) 長方形土坑

## SK 18 (第16図)

調査区北西部A・B2区で検出した土坑で、遺構検出時には土坑上面にて2基の柱穴〔SP248・249: 暗褐色土〕を検出している。平面形態は不整の長方形をなすものと思われ、規模は南北検出長1.55m、東西長0.82m、深さ14cmである。断面形態は逆台形状であるが、東西の壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑底面は平坦であるが、北側から南側に向けて緩傾斜をなす。土坑内からは弥生土器片が数点出土したが、図化しうる遺物を1点掲載した。

## 出土遺物

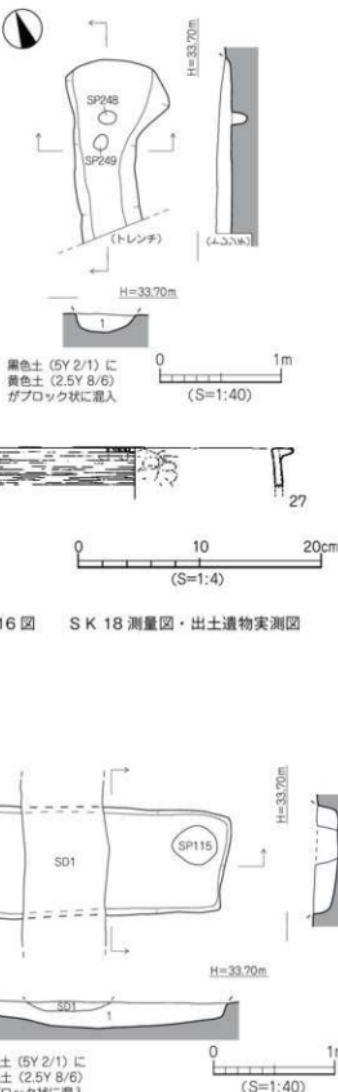
27は貼付により口縁部を成形する甕形土器で、口縁端部に刻目、胴部にヘラ描き沈線文5条以上を施す。胴部内面には、ヨコ方向のヘラミガキ調整が見られる。

時期：出土遺物が僅少で時期特定は難しいが、遺物の特徴や埋土より弥生時代前期末と考えられる。

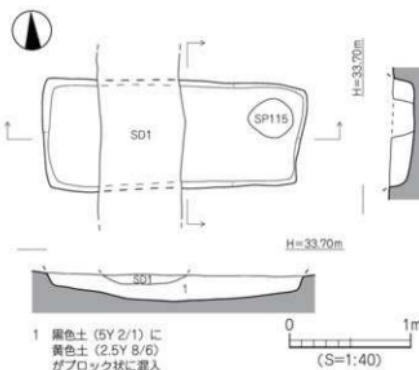
## SK 13 (第17図、図版8)

調査区北西部B2区で検出した土坑で、土坑西半部は溝SD1(8世紀)により削平されている。なお、遺構検出時には土坑上面にて柱穴1基〔SP115: 暗褐色土〕を検出している。平面形態は長方形で、規模は長さ2.16m、幅0.95m、深さ21cmである。断面形態は逆台形状であるが、北側壁体は筒状に立ち上がる。埋土は、黒色土(5Y 2/1)に黄色土(2.5Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑底面は、中央部に向けて緩傾斜をなす。土坑内からは、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は難し



第16図 SK 18測量図・出土遺物実測図



第17図 SK 13測量図

いが、埋土がSK4やSK14と酷似することから、弥生時代前期末と考えられる。

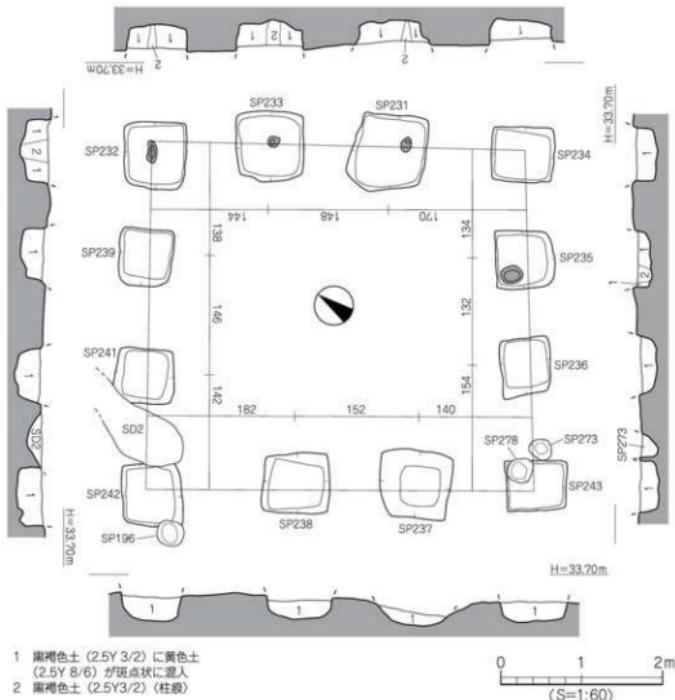
## 2. 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は掘立柱建物2棟、溝1条、土坑10基を検出した。

### (1) 掘立柱建物

#### 掘立1 (第18図、図版8・9)

調査区南西部E2～G3区に位置する3間×3間規模の建物で、12基の柱穴 (SP231～239・241～243) で構成される。側柱構造の建物で、建物方位を北西～南東方向にとる。建物西側は溝SD2 (7世紀中葉) に削平され、2基の柱穴 (SP242・243) はSP196 (暗褐色土) とSP278 (灰褐色土) に一部削平されている。建物規模は桁行長4.80m、梁行長4.16mである。建物を構成する柱穴の平面形態は方形または長方形で、規模は径0.59～0.96m、深さ22～37cmである。柱穴掘り方埋土は、黒褐色土 (2.5Y 3/2) に黄色土 (2.5Y 8/6) が斑点状に混入するものである。柱痕は4基の柱穴 (SP231～



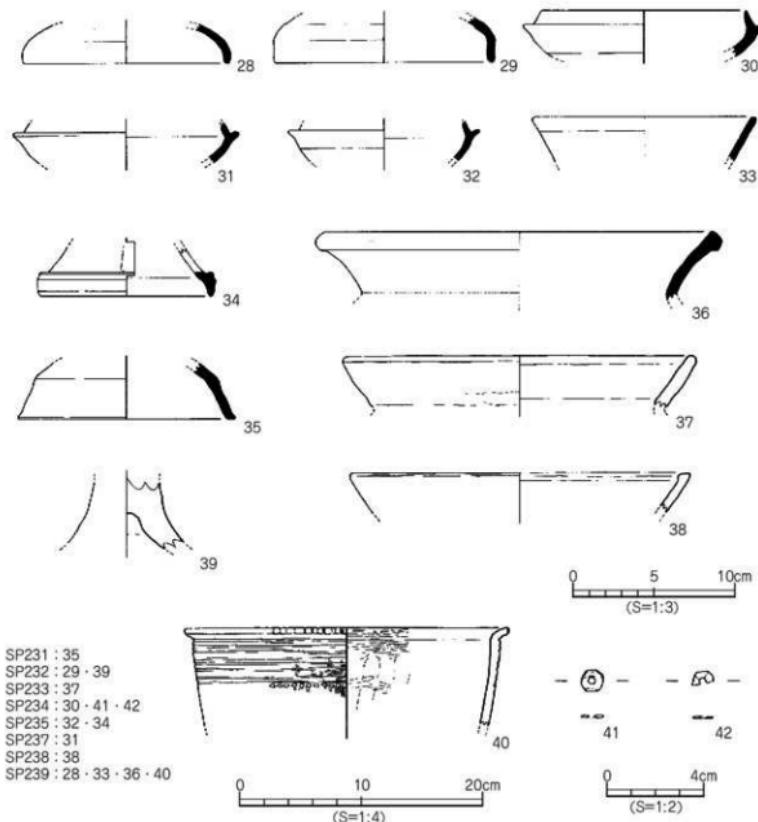
第18図 掘立1測量図

233・235)で検出され、径16~22cmである。柱痕埋土は、黒褐色土(2.5Y 3/2)である。遺物は柱穴掘り方塊土中より弥生土器や土師器、須恵器の破片のほか白玉2点が出土した。

## 出土遺物(第19図、図版16)

## 須恵器(28~36)

28は推定口径12.2cm、29は推定口径13.0cmの坏蓋片。丸みのある天井部をもち、口縁端部は丸く仕上げる。30~32は坏身片。30のうちあがり径は推定12.3cmで、端部は尖り気味に仕上げる。33は楕の口縁部片で、口縁端部は丸く仕上げる。34は高坏の脚部片。脚裾部は下方に屈曲し、柱部に透かしをもつ。35は脚付壺の脚部片で、脚部上位にて屈曲し、脚裾端部は平坦面をもつ。36は壺の口縁部片で、口縁端部は方形状に肥厚する。



第19図 据立1出土遺物実測図

**土師器（37～39）**

37・38は壺形土器、39は高壺形土器である。37・38の口縁部は内湾し、口縁端部は内傾する。なお、38の口縁部は内方にやや肥厚する。

**弥生土器（40）**

40は折曲により口縁部を成形する壺形土器で、口縁端部に刻目、胴部外面にはヘラ描き沈線文8条と刺突列点文1列が見られる。内面には、ヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

**装身具（41・42）**

41・42は滑石製の白玉。41は完存品で、直径0.90cm、厚さ0.13cm、重量0.12gである。42は1/2の残存である。

**時期：**出土した土師器、須恵器の特徴より古墳時代後期、7世紀初頭～前葉と考えられる。

**掘立2（第20図、図版9）**

調査区中央部C3～D4区に位置する2間×2間規模の建物で、8基の柱穴（SP56・66・74・76・79・82・118・283）で構成される。側柱構造の建物で、建物方位を東西方向とする。建物規模は桁行長3.97m、梁行長3.18mである。建物を構成する柱穴の平面形態は円形または楕円形で、規模は径0.28～0.85m、深さ10～30cmである。柱穴掘り方埋土は、黒褐色土（25Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）が斑点状に混入するものである。柱痕は4基の柱穴（SP66・74・82・118）で検出され、径10～20cmである。柱痕埋土は、黒褐色土（25Y 3/2）である。遺物は柱穴掘り方埋土中より弥生土器や土師器、須恵器の破片が少量出土した。

**出土遺物**

43は須恵器壺蓋。口縁部で、断面三角形状の鋭い稜をもち、口縁端部は内傾する。44は短頸壺の蓋。口縁部は外反気味に屈曲し、口縁端部は丸く仕上げる。45は壺の口縁部で、口縁端部はやや上方に肥厚する。46は弥生土器の広口壺で、口縁部内面に貼付凸帯1条を施す。頸部外面には、タテ方向のヘラミガキが部分的に残る。

**時期：**出土した土師器、須恵器の特徴より古墳時代後期、6世紀後葉と考えられる。

**（2）溝****S D 2（第21図、図版10）**

調査区南西部F2区で検出した南北方向の短い溝で、2基の掘立1柱穴（SP241・242）を一部削平している。規模は検出長2.10m、幅0.40～0.56m、深さは14cmである。断面形態はレンズ状で、埋土はオリーブ黒色土（5Y 3/1）に砂が混入するものである。溝底面はほぼ平坦で、わずかに北側から南側に向けて傾斜をなす（比高差2cm）。遺物は埋土中より、土師器や須恵器の破片が数点出土した。

**出土遺物**

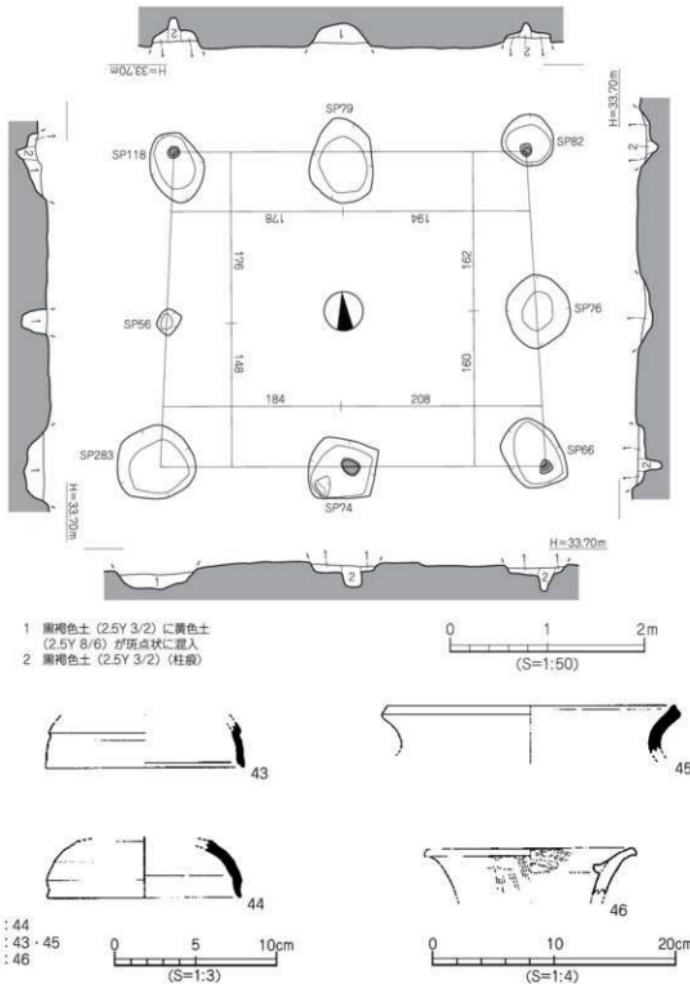
47は須恵器壺蓋片で、口縁部は尖り気味に仕上げる。48・49は須恵器壺身。小片で、48の受部は上方にひねり出されている。

**時期：**出土遺物の特徴より古墳時代後期、7世紀前葉と考えられる。

## (3) 土 坑

## SK 2 (第22図、図版10)

調査区中央部南寄りE4区で検出した土坑で、平面形態は不整の楕円形で、規模は長径1.20m、短径0.93m、深さ17cmである。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土(2.5Y 3/2)に黄色土(2.5Y



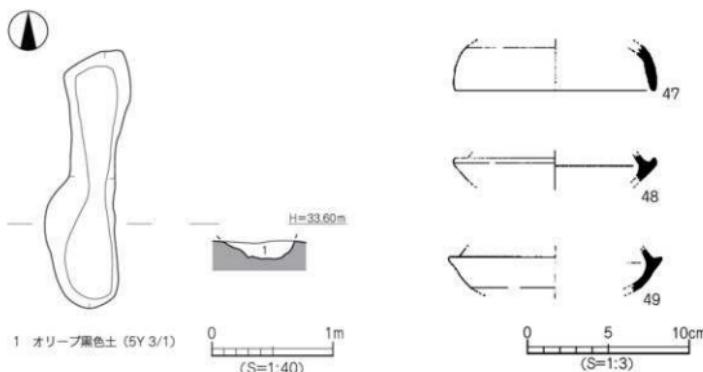
第20図 挖立2測量図・出土遺物実測図

8/6) がブロック状に混入するものである。土坑基底面には凹凸がみられ、基底面中央部が凹む。遺物は埋土下位から、土師器や須恵器の破片が数点出土した。

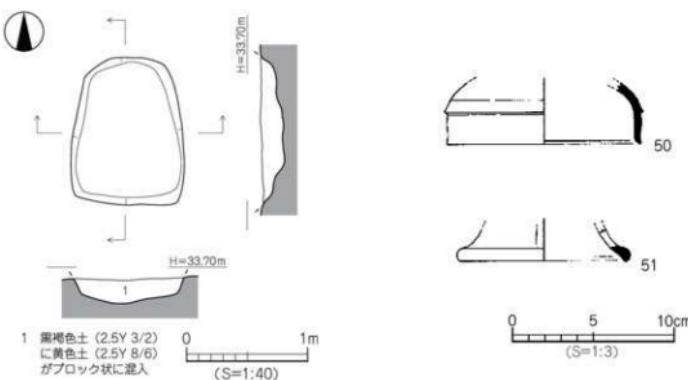
#### 出土遺物

50は須恵器壺蓋。断面三角形状の鋭い棱をもち、口縁端部は内傾する。51は高壺の脚部片。脚裾部は下方に屈曲し、柱部に透かしをもつ。

時期：出土遺物の特徴より古墳時代後期、6世紀前葉と考えられる。



第21図 SD 2測量図・出土遺物実測図



第22図 SK 2測量図・出土遺物実測図

## SK 19 (第23図)

調査区北壁中央部 A・B3 区で検出した土坑で、土坑北西部は柱穴 SP268 (暗褐色土) に削平され、土坑南半部はトレーニングにより削平されている。なお、遺構検出時には土坑上面にて 3 基の柱穴 [SP256・257: 灰褐色土、SP258: 暗褐色土に褐色土混入] を検出した。平面形態は円形をなすものと考えられ、規模は東西検出長 2.45 m、南北検出長 1.27 m、深さ 13 cm である。断面形態は壁体が緩やかに立ち上がる逆台形状をなし、埋土は黒褐色土 (2.5Y 3/2) に黄色土 (2.5Y 8/6) がブロック状に少量混入するものである。土坑底面は、平坦である。遺物は埋土中より、土師器や須恵器の小片が数点出土した。

## 出土遺物

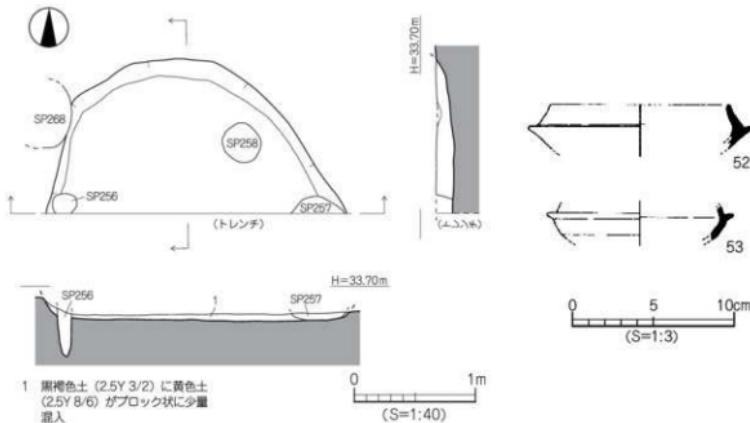
52・53 は須恵器坏身。52 のたちあがり径は推定 10.8 cm で、たちあがり端部は尖り気味に丸い。受部は短く水平にのび、受部端には沈線状の凹みが巡る。53 のたちあがりは一部欠損し、受部径は推定 10.6 cm である。

時期：出土遺物の特徴より古墳時代後期、7世紀前葉と考えられる。

## SK 6 (第24図、図版11)

調査区中央部南寄り E3・4 区で検出した土坑で、平面形態は不整の楕円形で、規模は長径 1.17 m、短径 0.78 m、深さ 10 cm である。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土 (2.5Y 3/2) に黄色土 (2.5Y 8/6) がブロック状に混入するものである。土坑底面には凹凸がみられ、基底面中央部がやや突出する。遺物は埋土下位から小蝶が出土したが、時期を判断しうる遺物の出土はない。

時期：時期特定しうる遺物の出土はないが、土坑埋土が SK2 や SK19 に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。



第23図 SK 19 測量図・出土遺物実測図

## SK 7 (第24図、図版11)

調査区南東部G5・6区で検出した土坑で、平面形態は楕円形で、規模は長径1.06m、短径0.76m、深さ9cmである。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土(25Y 3/2)に黄色土(25Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面には凹凸がみられ、基底面中央部がやや突出する。土坑内から、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

## SK 11 (第24図、図版12)

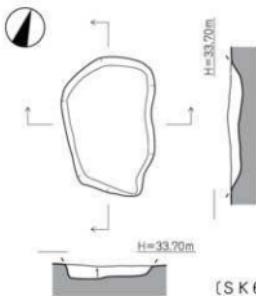
調査区中央部南寄りF3・4区で検出した土坑で、遺構検出時には土坑上面にて3基の柱穴〔SP161・193:褐色土、SP192:暗褐色土〕を検出した。平面形態は不整の楕円形で、規模は長径1.04m、短径1.17m、深さ17cmである。断面形態は逆台形状をなし、埋土は黒褐色土(25Y 3/2)に黄色土(25Y 8/6)がブロック状に混入するものである。土坑基底面には凹凸がみられ、北側から南側に向けて緩やかな傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

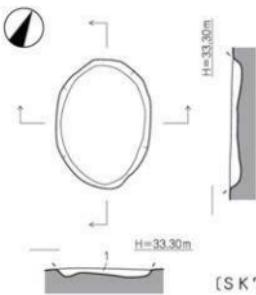
## SK 1 (第25図、図版11)

調査区中央部南寄りE・F3区で検出した土坑で、土坑北壁中央部は柱穴SP282(褐色土)に削平されている。平面形態は不整の長方形で、規模は長さ1.13m、幅0.96m、深さ17cmである。断面形態は逆台形状をなし、埋土は黒褐色土(25Y 3/2)に黄色土(25Y 8/6)がブロック状に混入するものである。

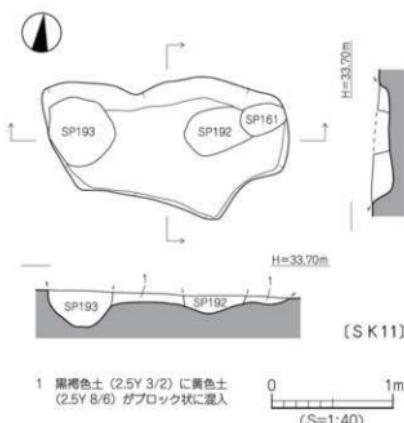
土坑基底面には凹凸がみられ、北東部から南



〔SK 6〕



〔SK 7〕



第24図 SK 6・7・11測量図

西部に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時 期：土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

#### S K 8（第25図、図版12）

調査区中央部東寄りD・E6区で検出した土坑で、土坑南側は柱穴SP16（暗褐色土に褐色土が混入）に削平されている。平面形態は南北方向に長くのびる楕円形で、規模は南北検出長1.92m、東西長0.61m、深さ26cmである。断面形態は逆台形状であるが、土坑西側壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、黒褐色土（25Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面にはわずかに凹凸がみられ、北側から南側に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時 期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

#### S K 10（第25図、図版12）

調査区中央部南寄りE・F4区で検出した土坑で、SK5と重複しており、SK10が後出する。平面形態は不整の方形で、規模は長さ1.04m、幅0.93m、深さ26cmである。断面形態は逆台形状であるが、壁体は丸みを帯びる。土坑埋土は、黒褐色土（25Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面には、中央部に向けて傾斜をなす。土坑内から、遺物の出土はない。

時 期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

#### S K 17（第25図）

調査区北東部B5区で検出した土坑で、平面形態は東西方向に長くのびる不整楕円形で、規模は長径1.11m、短径0.46m、深さ15cmである。断面形態は逆台形状をなし、埋土は黒褐色土（25Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面は、ほぼ平坦である。土坑内から、遺物の出土はない。

時 期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。

#### S K 20（第25図）

調査区北東隅C7区、溝SD3基底面にて検出した土坑で、平面形態は南北方向に長くのびる楕円形で、規模は長径1.38m、短径0.47m、深さ17cmである。断面形態は逆台形状をなし、埋土は黒褐色土（25Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）がブロック状に混入するものである。土坑基底面は、わずかに凹凸がみられる。土坑内から、遺物の出土はない。

時 期：土坑埋土がSK2やSK19に酷似することから、概ね古墳時代後期と考えられる。



第25図 SK 1・8・10・17・20測量図

### 3. 古代の遺構と遺物

古代の遺構は、溝1条を検出した。

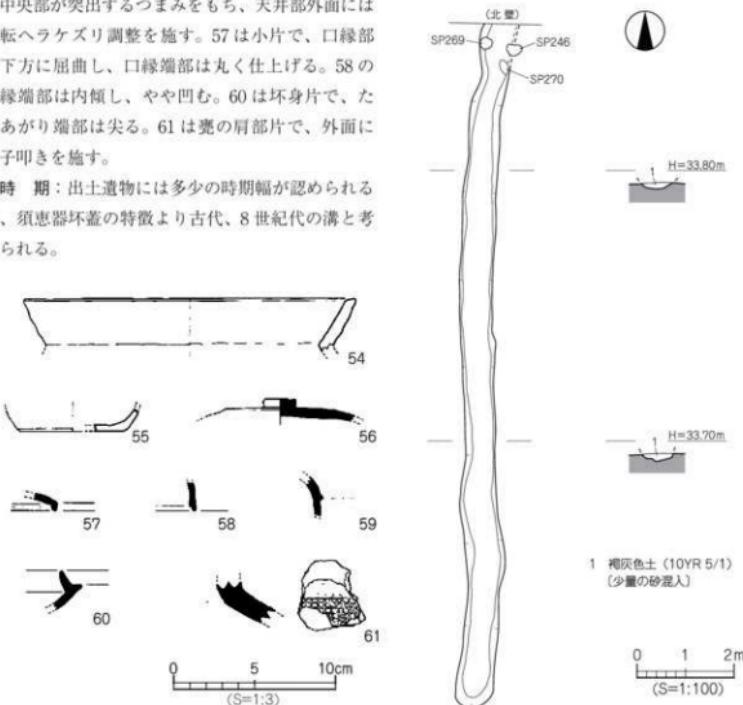
#### S D 1 (第26図、図版13)

調査区北西部A2～E2区で検出した南北方向の溝で、溝南側は消失し、北側は調査区外に続く。なお、遺構検出時、溝北側は上面にて3基の柱穴〔SP246・269:褐色土、SP270:暗褐色土〕を検出した。また、溝中央部と中央部北寄りでは2基の土坑〔SK13・14〕を一部削平している。規模は、検出長14.00m、幅0.74m、深さ12cmである。断面形態はレンズ状をなし、埋土は褐灰色土(10YR 5/1)に少量の砂が混入するものである。溝基底面には凹凸がみられ、北から南に向けて緩傾斜をなす(比高差3cm)。遺物は埋土中より、土器類や須恵器の破片が散在して出土した。

#### 出土遺物

54～55は土器類。54は壺形土器の口縁部。内湾口縁で、口縁端部は内傾する。55は皿で、体部は内湾する。56～61は須恵器。56～59は坏蓋。56は中央部が突出するつまみをもち、天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。57は小片で、口縁部は下方に屈曲し、口縁端部は丸く仕上げる。58の口縁端部は内傾し、やや凹む。60は坏身片で、たちあがり端部は尖る。61は壺の肩部片で、外面に格子叩きを施す。

時期：出土遺物には多少の時期幅が認められるが、須恵器坏蓋の特徴より古代、8世紀代の溝と考えられる。



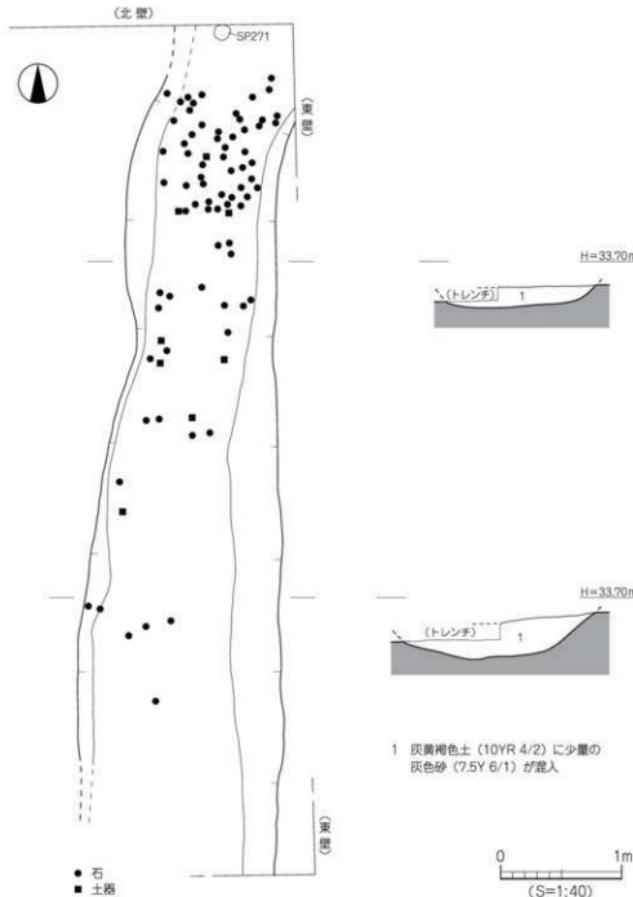
第26図 S D 1測量図・出土遺物実測図

#### 4. 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、溝1条を検出した。

S D 3 (第27図、図版13・14)

調査区北東部B・C7区で検出した南北方向の溝で、溝南端は消失し、北側は調査区外に続く。遺構検出時、溝北側は上面にて柱穴SP271(灰褐色土)を検出した。また、溝基底面からは土坑SK20を検出している。規模は検出長6.96m、最大幅1.60m、深さ38cmである。断面形態はレンズ状をなし、



第27図 S D 3測量図

埋土は灰黄褐色土（10YR 4/2）に少量の灰色砂（7.5Y 6/1）が混入するものである。溝基底面にはわずかに凹凸がみられ、北側から南側に向けて傾斜をなす（比高差5cm）。遺物は溝北半部の埋土中位付近に集中しており、土師器や須恵器、陶磁器、瓦のほか径3～5cmの大河原石が出土した。

#### 出土遺物（第28図、図版16）

##### 土師器（62～65）

62は推定口径11.2cmの壺で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は尖り氣味に仕上げる。63は壺の底部片で、底部の切離しは回転糸切り技法による。64は羽釜で、長く水平に伸びる鋤をもち、端部は丸く仕上げる。外面には煤が付着する。65は土釜の脚部片で、断面形態は円形である。66は擂鉢片で、口縁端部は内傾する。

##### 陶磁器（67・68）

67・68は備前焼。67は擂鉢で、口縁部は直立し、口縁端部は尖り氣味に丸く仕上げる。色調は外側が暗褐色、内側は褐色である。68は片口鉢の注口部で、端部は尖る。色調は、内外面共に暗赤褐色である。

##### 瓦（69・70）

69・70は平瓦。土師質で、色調は69が灰黄色、70は灰色である。

時期：出土遺物の特徴より中世、15世紀代の溝と考えられる。

## 5. その他の遺構と遺物

調査では、296基の柱穴を検出した（掘立柱建物柱穴20基を含む）。また、包含層や重機による表土掘削時に遺物が出土した。このうち、重機掘削時に出土した遺物は層位や地点が明らかでない為、ここでは「地点不明遺物」として掲載している。

### （1）柱穴（表6）

柱穴掘り方埋土は、以下の六種類（①類～⑥類）である。なお、黒褐色土（黄色土混入）を埋土とする柱穴（⑥類）は掘立柱建物を構成するものである。遺物は①類の柱穴より弥生土器や土師器、須恵器、④類の柱穴からは中世段階の土師器や陶磁器が出土している。

#### ①類：暗褐色土（10YR 3/3）〔184基〕

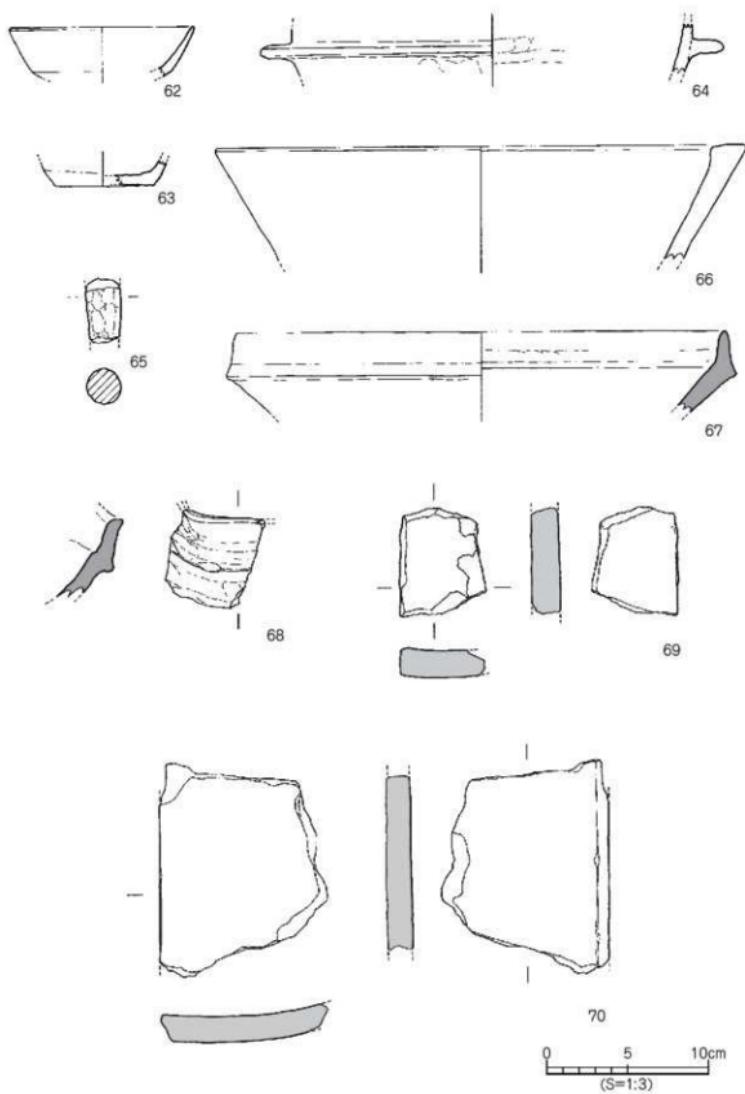
(SP1～4・11・12・14・17・20～24・27・29～32・34～45・48～55・57・58・61～63・65・68～70・72・73・75・78・80・81・89～91・95～100・103・105・108・110～112・114～117・119・121・122・124～126・129～136・139～155・158～160・162～169・171・173～180・182・184・187～192・194・196～201・203・204・206・209～225・227～230・240・244・248・249・261・266～268・270・272～275・277・285・286・291～296)

#### ②類：黒褐色土（2.5Y 3/2）〔22基〕

(SP5～7・9・10・13・18・26・28・33・47・60・64・67・85・92～94・101・113・183・284)

#### ③類：暗褐色土（10YR 3/3）に褐色土（7.5YR 3/3）が混入〔12基〕

(SP8・16・71・84・86・87・138・252・253・255・258・260)



第28図 SD 3出土遺物実測図

- ④類：灰褐色土（10YR 4/2）〔39基〕  
 (SP19・46・59・77・83・88・102・104・106・107・109・127・128・137・156・157・181・  
 186・195・202・205・207・208・250・254・256・257・259・262～265・271・278・281・  
 287～290)
- ⑤類：褐色土（7.5YR 3/3）〔19基〕  
 (SP15・25・120・123・161・170・172・185・193・226・245～247・251・269・276・279・  
 280・282)
- ⑥類：黒褐色土（2.5Y 3/2）に黄色土（25Y 8/6）が混入〔20基〕  
 掘立1：SP231～239・241～243  
 掘立2：SP56・66・74・76・79・82・118・283

## 出土遺物（第29・30図、図版16・17）

71～80、84～87は①類、81は③類、82・83・88は④類の柱穴出土品である。

## 弥生土器（71～81）

71・72は折曲により口縁部を成形する壺形土器。72の胴部外面には、櫛描き沈線文6条以上を施す。73・74は壺形土器の頸部片で、73には櫛描き沈線文12条以上が描かれている。74は「M」字状の凸帯を貼付け、凸帯上に連鎖状刻目文2列、凸帯下にヘラ描き沈線文2条以上を施す。75・76は胴部片。75の胴部上位にはヘラ描き沈線文6条と沈線文の上下に刺突文1列、胴部中位にはヘラ描き沈線文1条と刺突文1列を施す。76は断面三角形状の凸帯を貼付け、凸帯上に押圧を加える。75・76共に、内外面にはヨコないしナナメ方向の丁寧なヘラミガキ調整が見られる。77は広口壺または直口壺で、底部は上げ底である。外面にはヘラミガキが施され、内面には粘土接合痕が顕著に残る。78・79は蓋形土器。78は中央部が凹むつまみをもち、口縁部外面にはヘラミガキを施す。79は径0.4cm大の円孔を二箇所に穿つ。80・81は壺形土器の底部で、上げ底である。

## 土師器（82～84）

82・83は三足付土釜。82は口唇部よりやや下がった位置に、粘土帯を貼付けることにより口縁部を成形している。83は胴底部で底部はやや丸みを帯び、脚部の断面形態は円形である。胴下半部及び底部外面には、煤が付着する。84は壺形土器の口縁部片で、口縁中位に膨らみをもち、頭部内面には明瞭な稜をもつ。

## 須恵器（85～87）

85～87は坏身片。85のたちあがり径は推定10.3cmで、たちあがり端部は内傾する。86のたちあがりは低く内傾し、端部は尖る。

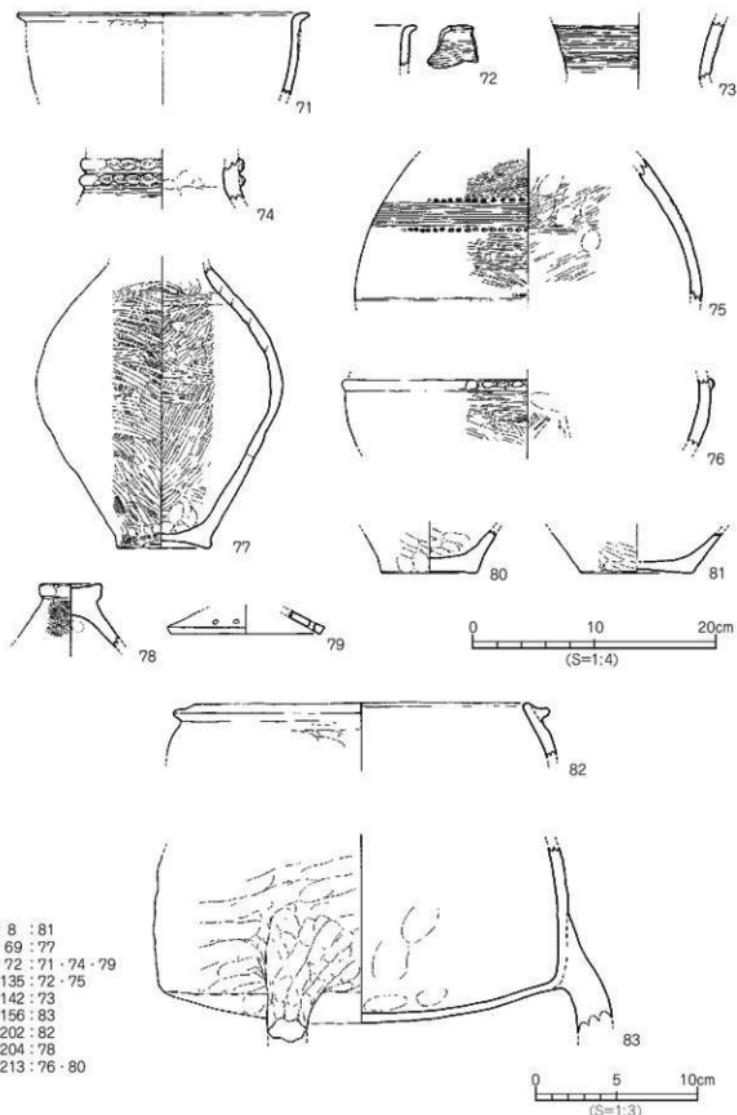
## 陶磁器（88）

88は龍泉窯系青磁碗の底部片で、体部外面と底部内面には唐草文が施されている。胎土は灰色で緑色の釉薬が掛けられているが、底部外面は無釉である。

## (2) 第IV層出土遺物（第31・32図、図版17）

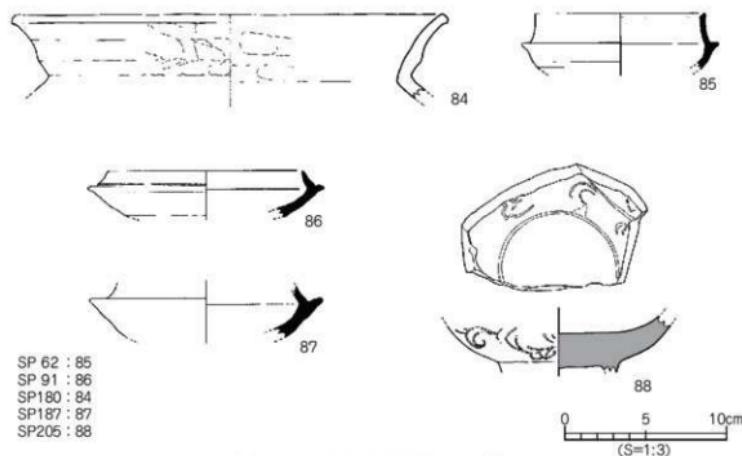
## 弥生土器（89～94）

89～91は中型品。89・90は貼付により口縁部を成形する壺形土器で、89の胴部外面には櫛描き

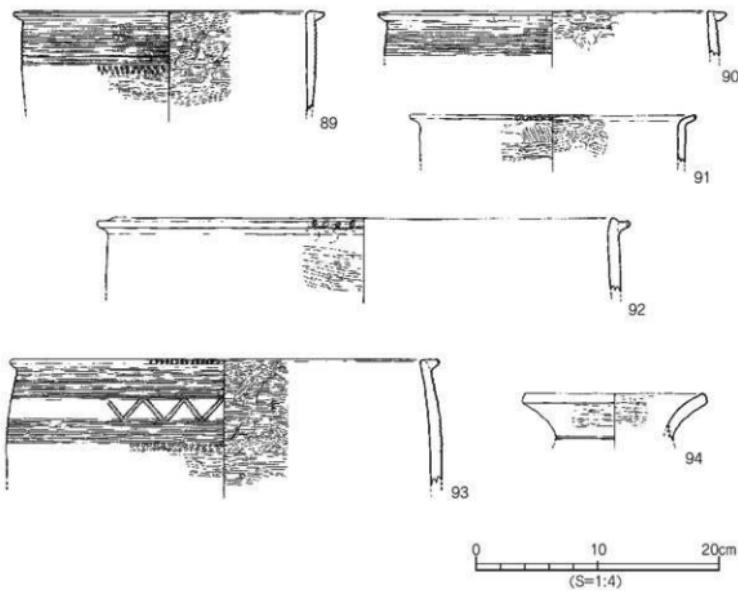


第29図 柱穴出土遺物実測図(1)

SP 8 : 81  
 SP 69 : 77  
 SP 72 : 71 · 74 · 79  
 SP135 : 72 · 75  
 SP142 : 73  
 SP156 : 83  
 SP202 : 82  
 SP204 : 78  
 SP213 : 76 · 80



第30図 柱穴出土遺物実測図(2)

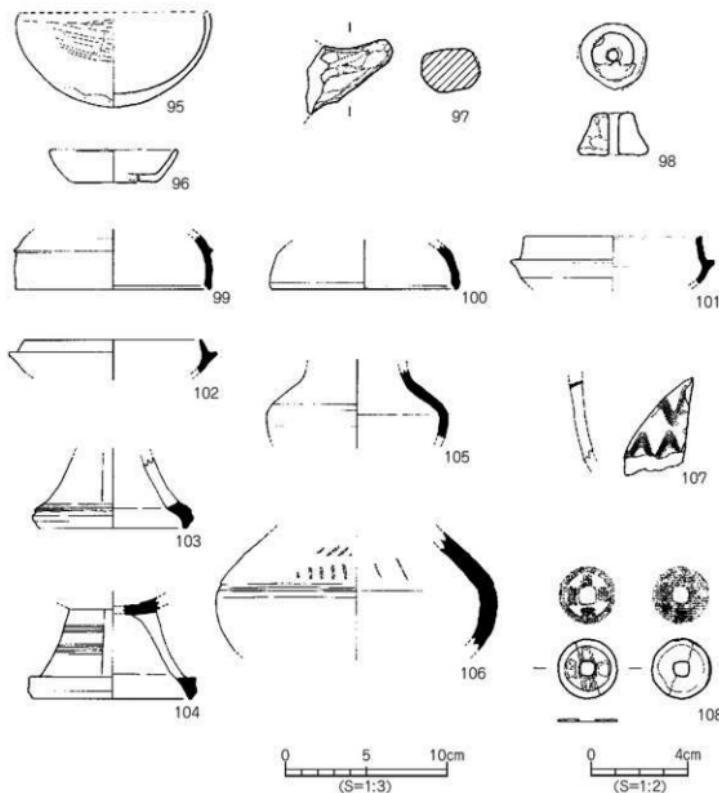


第31図 第IV層出土遺物実測図(1)

沈線文 10 条と刺突文 2 列、90 は櫛描き沈線文 8 条が描かれている。なお、89 の内外面にはヨコ方向のヘラミガキ、90 の外面にはハケメ、内面はヘラミガキ調整を施す。91 は折曲により口縁部を成形する甕形土器で、口縁端部に刻目を施す。92・93 は大型品。貼付口縁で、92 は推定口径 43.6cm、93 は 33.0cm である。口縁端部には刻目、93 の胴部外面には 2 段の櫛描き沈線文 7 条が施され、沈線文間に 2 条 1 対の工具による山形文、沈線文下には刺突文 2 列が見られる。94 は広口壺の口縁部片で、頭部にはヘラ描き沈線文 1 条が施されている。

土師器 (95 ~ 97)

95 は楕円形土器。口縁部を一部欠損するが体部は内湾し、底部は丸底である。96 は口径 7.8cm、底径 5.0cm、器高 2.0cm の坏で、体部は内湾気味に立ち上がる。97 は瓶の把手部で、断面形態は梢円形である。



第 32 図 第 IV 層出土遺物実測図 (2)

## 土製品 (98)

98は受部径2.5cm、底径4.2cm、器高2.6cmの紡錘車。平面形態は台形状をなし、径0.6cm大の孔を穿つ。

## 須恵器 (99 ~ 107)

99・100は壺蓋。99は断面三角形状の鋭い棱をもち、口縁端部は内傾する。100は丸みのある天井部をもち、口縁端部は尖る。101・102は壺身。101のたちあがり径は推定10.8cmで端部は内傾し、端面には沈線状の凹みが巡る。102のたちあがり径は推定10.8cmで、端部は尖る。103・104は高壺の脚部。脚裾部は下方に屈曲し、柱部には透かしをもつ。105・106は壺で、106の肩部には刺突列点文、肩胴部の境界には2条の沈線が巡る。107は器台の脚部片で、2段の波状文が施される。

## 銭貨 (108)

108は初鎌年が1039年の皇宋通寶。完存品で、外径2.4cm、内径1.8cm、厚さ0.1cmである。

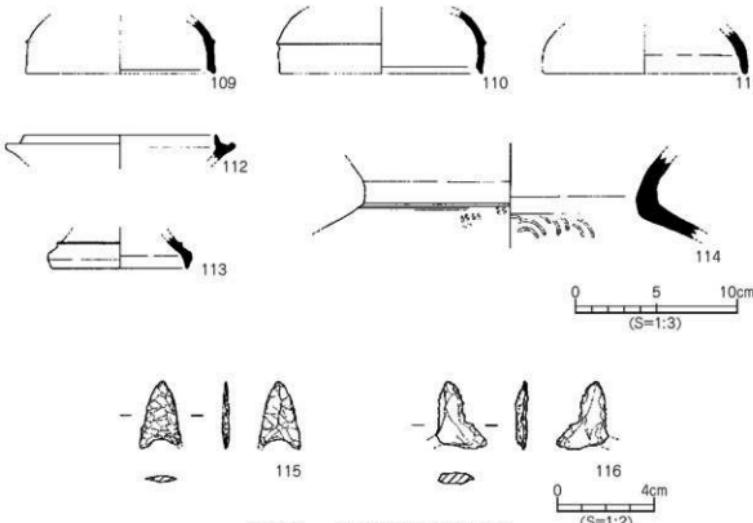
## (3) 地点不明出土遺物 (第33図、図版17)

## 須恵器 (109 ~ 114)

109~111は壺蓋。109・110は断面三角形状の鋭い棱をもち、口縁端部は内傾する。111は丸みのある天井部をもち、口縁端部は尖る。112は壺身片で、たちあがりは短く内傾し、受部は上外方に練り出されている。113は高壺の脚部片で、脚裾部は下方に屈曲する。114は壺で、外面に回転カキメ調整、内面には円弧叩きがみられる。

## 石器 (115・116)

115・116は二等辺三角形状の凹基無茎石鏃で、石材は115がサスカイト、116は赤色珪質岩である。



第33図 地点不明出土遺物実測図

## 第4章 調査の成果と課題

今回の調査では、縄文時代から中世までの遺構や遺物を検出した。ここでは、時代別にまとめを行うこととする。

### (1) 縄文時代

遺構は未検出であるが、弥生時代の遺構であるSB1から縄文時代晩期の土器片が出土した。周辺では、久米才歩行遺跡4次調査で検出した自然流路内より晩期の土器片4点が出土している。また、遺跡西方に所在する南久米片廻り遺跡からは凸帯文期の土器片が多数確認されており、才歩行遺跡から南久米片廻り遺跡一帯には同時期の集落が存在していたものと推測される。

### (2) 弥生時代

弥生時代では、前述のSB1と土坑10基があげられる。SB1は長さ3.3m、幅2.3mの楕円形をなす竪穴建物で、出土遺物より弥生時代前期末の遺構と考えられる。なお、主柱穴や周壁溝などの施設は検出されておらず、SB1は住まいとして利用されたものではないと思われる。周辺では、調査地北方にある久米才歩行遺跡2次調査から同時期の竪穴建物や土坑が検出されている。松山平野内において当該期の竪穴建物は検出事例が極めて少なく、SB1の検出は稀少例として重要である。

### (3) 古墳時代

古墳時代では掘立柱建物2棟と溝1条、土坑10基を検出した。掘立1は3間×3間規模の側柱構造をもつ建物址で、建物を構成する柱穴は方形をなし、柱穴掘り方規模は一辺60cmから1m、柱痕径は10～22cmである。柱穴内からは7世紀前葉に時期比定される土師器片や須恵器片のほか、滑石製の白玉2点が出土した。一方、掘立2は2間×2間規模の建物址で、掘立1と同様の側柱構造である。建物を構成する柱穴は円形または楕円形をなし、掘り方規模は径20～90cmを測る。なお、柱痕径は10～15cmである。柱穴内からは、6世紀後半に時期比定される須恵器片が出土した。久米才歩行遺跡5次調査からは、6世紀代の掘立柱建物4棟や5世紀代の竪穴建物1棟が検出されているほか、同2次調査からは6世紀前半の竪穴建物が検出されている。これらのことから、古墳時代中・後期を通して調査地一帯には継続的に集落が営まれていたものと考えられる。

### (4) 古代

古代の遺構は、溝SD1があげられる。調査区西部で検出した南北方向の溝で、方位をほぼ真北方向にとる。検出幅は70cmで、溝内からは6世紀から8世紀に時期比定される土器片が出土した。検出状況や出土遺物から、溝の最終埋没時期は8世紀代と考えられる。調査地北方にある久米才歩行遺跡2次調査からは西から東へ「L」字状に折れ曲がる南北方向の溝が検出されており、本調査検出のSD1は、2次調査で検出した溝の延長部分と思われる。このことから、これらの溝は区画溝としての機能をもつ遺構の可能性があり、才歩行遺跡一帯にも来往台地上でみられる方形区画施設が存在する可能性を示唆する資料といえよう。遺物では、第IV層中より銭貨〔初鋤年1039年の『皇宋通寶』〕が

出土している。

## (5) 中世

中世では、溝 SD3 を検出した。調査区北東部に位置する南北方向の溝で、溝内からは 13 世紀から 15 世紀代に時期比定される土師器や瓦のはか、備前焼の捕鉢などが出土した。久米才歩行遺跡からは掘立柱建物や溝、土坑、井戸など数多くの中世遺構が検出されており、遺跡一帯には中世集落が広範囲に展開していたものといえる。なお、松山平野内における中世集落の構造や様相は不明な点が多く、今後、該期の集落を解明するうえで、良好な追加資料であると評価されよう。

### 遺構一覧・遺物観察表　－凡例－

以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

#### (1) 遺構一覧表

地区欄　　グリッド名を記載。

出土遺物欄　　土器名称を略記した。

例) 繩文→縄文土器、弥生→弥生土器、土師→土師器、須恵→須恵器

#### (2) 遺物観察表

法量欄　　( ) : 復元推定値

調整欄　　土器の各部位名称を略記した。

例) 天→天井部、つ→つまみ、口→口縁部、頸→頸部、肩→肩部、胴→胴部、体→体部、柱→柱部、底→底部

胎土欄　　胎土欄は混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ

( ) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) → 「1~4mmの大の石英・長石を含む」である。

焼成欄　　焼成欄の略記について

◎→ 良好、○→ 良

表2 整穴建物一覧

整穴 (S B)	地区	平面形	規 模 長径×短径×壁高 (m)	埋 土	内部施設	出土遺物	時 期	備 考
1	B1・2	楕円形	(325) × (2.30) × 0.25	黒色土 (黄色土混入)		縄文・弥生・石	弥生前期末	

表3 掘立柱建物一覧

掘立	地 区	方 位	規 模 (間)	析行長 (m)	串行長 (m)	床面積 (m <sup>2</sup> )	柱穴埋土	出土遺物	時 期	備 考
1	E2 ~ G3	北西~南東	3 × 3	4.80	4.16	19.968	黒褐色土 (黄色土混入)	弥生・土師 須恵・玉	7世紀初頭 前業	
2	C3 ~ D4	東西	2 × 2	3.97	3.18	12.624	黒褐色土 (黄色土混入)	弥生・土師 須恵	6世紀後業	

表4 溝一覧

溝 (SD)	地 区	断面形	方 向	規 模 長さ×幅×深さ (m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	A2 ~ E2	レンズ状	南北	14.00 × 0.74 × 0.12	褐灰色土 (砂混入)	土師・須恵	8世紀	SK13-14を切る
2	F2	レンズ状	南北	21.0 × 0.56 × 0.14	オリーブ黒褐色土 (砂混入)	土師・須恵	7世紀前業	
3	B・C7	レンズ状	南北	6.96 × 1.60 × 0.38	灰褐色土 (砂混入)	土師・須恵 陶磁器・瓦・石	15世紀	

表5 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	E・F3	不整長方形	逆台形狀	1.13 × 0.96 × 0.17	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	SP282に切られる
2	E4	不整椭円形	逆台形狀	1.20 × 0.93 × 0.17	黒褐色土 (黄色土混入)	土師・須恵	6世紀前業	
3	D2	椭円形	逆台形狀	0.87 × 0.57 × 0.33	黒褐色土 (黄色土混入)		弥生前期末	

## 遺構一覧

(2)

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
4	C2	楕円形	逆台形状	1.21 × 1.05 × 0.14	黒色土 (黄色土混入)	弥生	弥生前期末	SP208に切られる
5	F4	不整椭円形	逆台形状	1.75 × 1.25 × 0.15	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	SK10-11に切られる
6	E3-4	不整椭円形	逆台形状	1.17 × 0.78 × 0.10	黒褐色土 (黄色土混入)	石	古墳時代後期	
7	G5-6	楕円形	逆台形状	1.06 × 0.76 × 0.09	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	
8	D-E6	長楕円形	逆台形状	(1.92) × 0.61 × 0.26	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	SP16に切られる
9	C2 ~ D3	楕円形	逆台形状	1.74 × 0.98 × 0.10	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	SP167に切られる
10	E-F4	不方形	逆台形状	1.04 × 0.93 × 0.26	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	
11	F3-4	不整椭円形	逆台形状	2.04 × 1.17 × 0.17	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	SP161-192-193に切られる
12	C3	不整椭円形	逆台形状	1.25 × 0.90 × 0.28	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	
13	B2	長方形 (一部両面)	逆台形状	2.16 × 0.95 × 0.21	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	SD1, SP115に切られる
14	C2	不整椭円形	逆台形状	2.16 × 1.67 × 0.24	黒色土 (黄色土混入)	弥生	弥生前期末	SD1, SP119-120-189に切られる
15	C2	不整椭円形	逆台形状	1.60 × 0.96 × 0.08	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	SD16-117-188に切られる
16	D3	楕円形	逆台形状	1.16 × 0.88 × 0.07	黒色土 (黄色土混入)		弥生前期末	SP78-80に切られる
17	B5	不整椭円形	逆台形状	1.11 × 0.46 × 0.15	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	
18	A-B2	不整長方形	逆台形状	(1.55) × 0.82 × 0.14	黒色土 (黄色土混入)	弥生	弥生前期末	SP248-249に切られる
19	A-B3	(円形)	逆台形状	(2.45) × (1.27) × 0.13	黒褐色土 (黄色土混入)	土師・埴輪	7世紀前葉	SP256 ~ 258-268に切られる
20	C7	長楕円形	逆台形状	1.38 × 0.47 × 0.17	黒褐色土 (黄色土混入)		古墳時代後期	

表6 柱穴一覧

(1)

柱穴 (SP)	地 区	平面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	備 考
1	B6	円形	0.86 × (0.76) × 0.30	暗褐色土		
2	B6	楕円形	(1.00) × 0.72 × 0.22	暗褐色土		
3	C6	不整椭円形	0.40 × 0.28 × 0.18	暗褐色土		
4	D6	楕円形	0.60 × 0.40 × 0.33	暗褐色土		
5	C6	円形	0.40 × 0.38 × 0.24	黒褐色土		
6	C6	楕円形	(0.56) × 0.40 × 0.30	黒褐色土		
7	C6	円形	0.48 × 0.48 × 0.22	黒褐色土		
8	C6	円形	0.46 × 0.45 × 0.29	暗褐色土(褐色土混入)	弥生	
9	D6	楕円形	0.40 × 0.30 × 0.28	黒褐色土		
10	C5	円形	0.56 × 0.54 × 0.30	黒褐色土		
11	C6	円形	0.42 × 0.40 × 0.22	暗褐色土		
12	B5	楕円形	0.28 × 0.24 × 0.20	暗褐色土		
13	E5	円形	0.20 × 0.19 × 0.14	黒褐色土		
14	D5	円形	0.20 × 0.20 × 0.11	暗褐色土		
15	E5	円形	0.24 × 0.23 × 0.11	褐色土		
16	E6	円形	0.44 × 0.43 × 0.08	暗褐色土(褐色土混入)		SK8を切る
17	F5	楕円形	0.72 × 0.40 × 0.23	暗褐色土		
18	E5	円形	0.60 × 0.60 × 0.22	黒褐色土		
19	E5	(円形)	(0.58) × (0.14) × 0.14	灰褐色土		
20	E5	円形	0.26 × 0.24 × 0.17	暗褐色土		
21	E5	楕円形	0.21 × 0.14 × 0.08	暗褐色土		
22	E5	円形	0.40 × 0.39 × 0.15	暗褐色土		
23	E5	円形	0.32 × 0.30 × 0.19	暗褐色土		
24	F6	円形	0.30 × 0.30 × 0.04	暗褐色土		
25	C6	楕円形	0.64 × 0.56 × 0.28	褐色土		
26	B5	円形	0.76 × 0.74 × 0.28	黒褐色土		
27	E4	円形	0.40 × 0.38 × 0.16	暗褐色土		
28	B-C5	円形	0.56 × 0.54 × 0.32	黒褐色土		
29	E4	円形	0.20 × 0.20 × 0.32	暗褐色土		
30	F-G4	楕円形	0.80 × 0.60 × 0.21	暗褐色土		
31	D4-5	楕円形	0.36 × 0.22 × 0.11	暗褐色土		
32	D4	楕円形	0.52 × 0.36 × 0.10	暗褐色土		
33	C4	不整円形	0.40 × 0.39 × 0.23	黒褐色土		
34	B-C4	楕円形	0.56 × 0.28 × 0.30	暗褐色土		

(2)

柱穴 (S P)	地 区	平面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	備 考
35	C4	不整円形	0.76 × 0.59 × 0.33	暗褐色土		
36	D5	円形	0.19 × 0.18 × 0.08	暗褐色土		
37	E5	円形	0.44 × 0.43 × 0.10	暗褐色土		
38	B4	円形	0.24 × 0.23 × 0.24	暗褐色土		
39	B4	円形	0.23 × 0.22 × 0.10	暗褐色土		
40	C4	円形	0.22 × 0.21 × 0.29	暗褐色土		
41	C4	円形	0.28 × 0.27 × 0.12	暗褐色土		
42	C4	円形	(0.28) × 0.20 × 0.12	暗褐色土		
43	E·F5	円形	0.52 × 0.52 × 0.29	暗褐色土		
44	F5	円形	0.63 × 0.62 × 0.21	暗褐色土		
45	E4·5	円形	0.62 × 0.60 × 0.20	暗褐色土		
46	D4	円形	0.23 × 0.23 × 0.12	灰褐色土		
47	D4	稍円形	(0.60) × 0.54 × 0.28	黑褐色土		
48	D4	不整円形	0.40 × 0.39 × 0.24	暗褐色土		
49	D4	円形	0.24 × 0.23 × 0.10	暗褐色土		
50	F4	稍円形	0.60 × 0.54 × 0.40	暗褐色土	SK5 を切る	
51	D4	稍円形	0.26 × 0.24 × 0.12	暗褐色土		
52	D·E4	稍円形	0.40 × 0.20 × 0.23	暗褐色土		
53	E4	稍円形	0.41 × 0.22 × 0.26	暗褐色土		
54	E4	不整円形	0.29 × 0.28 × 0.20	暗褐色土		
55	F·G4	円形	0.56 × 0.56 × 0.27	暗褐色土		
56	D3	円形	0.25 × 0.24 × 0.25	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
57	D3	不整円形	0.40 × 0.39 × 0.15	暗褐色土		
58	G4	稍円形	0.32 × 0.16 × 0.05	暗褐色土		
59	D3	稍円形	0.59 × 0.37 × 0.22	灰褐色土		
60	D3	円形	0.30 × 0.30 × 0.18	黑褐色土		
61	D3	稍円形	0.40 × 0.36 × 0.23	暗褐色土		
62	E4	円形	0.42 × 0.41 × 0.22	暗褐色土	土師・須恵	
63	E4	円形	0.58 × 0.56 × 0.24	暗褐色土		
64	D3	稍円形	0.41 × 0.33 × 0.30	黑褐色土		
65	D4	円形	0.22 × 0.21 × 0.18	暗褐色土		
66	D4	稍円形	0.76 × 0.57 × 0.08	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
67	D4	円形	0.36 × 0.34 × 0.22	黑褐色土		
68	D4	稍円形	(0.39) × 0.20 × 0.20	暗褐色土		
69	D4	円形	0.21 × 0.21 × 0.08	暗褐色土	弥生	
70	E3	円形	0.40 × 0.40 × 0.11	暗褐色土		
71	D3	稍円形	0.44 × 0.36 × 0.28	暗褐色土(褐色土混入)		
72	D·E4	稍円形	0.96 × 0.72 × 0.36	暗褐色土	弥生・桂瓶	
73	D3	円形	0.12 × 0.12 × 0.10	暗褐色土		
74	D4	不整円形	0.70 × 0.62 × 0.10	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
75	E3	円形	0.36 × 0.34 × 0.22	暗褐色土	SK16 を切る	
76	D4	稍円形	0.75 × 0.64 × 0.15	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
77	D3	円形	0.20 × 0.20 × 0.11	灰褐色土		
78	D3	円形	0.20 × 0.20 × 0.06	暗褐色土	SK16 を切る	
79	C4	稍円形	0.86 × 0.66 × 0.25	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
80	D3	稍円形	(0.36) × 0.44 × 0.13	暗褐色土	SK16 を切る	
81	D3	円形	0.18 × 0.18 × 0.12	暗褐色土		
82	C4	円形	0.52 × 0.52 × 0.13	黑褐色土(黄色土混入)	掘立 2	
83	E2·3	円形	0.20 × 0.20 × 0.05	灰褐色土		
84	E3	円形	0.24 × 0.23 × 0.11	暗褐色土(褐色土混入)		
85	C4	不整円形	0.40 × 0.40 × 0.22	黑褐色土		
86	E2	円形	0.26 × 0.24 × 0.10	暗褐色土(褐色土混入)		
87	E2	稍円形	0.70 × 0.38 × 0.28	暗褐色土(褐色土混入)		
88	D2	円形	0.18 × 0.17 × 0.06	灰褐色土		
89	D2	円形	0.24 × 0.23 × 0.10	暗褐色土		
90	B·C4	不整円形	1.60 × 1.02 × 0.36	暗褐色土		
91	B4	不整円形	1.02 × 0.98 × 0.22	暗褐色土	土師・須恵	
92	C3	稍円形	0.24 × 0.20 × 0.12	黑褐色土		
93	B3	稍円形	0.80 × 0.40 × 0.10	黑褐色土		
94	B3	円形	0.20 × 0.20 × 0.08	黑褐色土		
95	B3	稍円形	0.30 × 0.26 × 0.10	暗褐色土		
96	B3	円形	0.36 × 0.36 × 0.27	暗褐色土		
97	B3	円形	0.44 × 0.22 × 0.25	暗褐色土		

## 造構一覧

(3)

柱穴 (S.P.)	地 区	平面形	規 横 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	備 考
98	B4	楕円形	0.58 × 0.40 × 0.29	暗褐色土		
99	B4	円形	0.23 × 0.23 × 0.38	暗褐色土		
100	B3	円形	0.24 × 0.24 × 0.28	暗褐色土		
101	B4	円形	0.56 × 0.56 × 0.16	黒褐色土		
102	B3	楕円形	0.41 × 0.24 × 0.12	灰褐色土		
103	B3	円形	0.36 × 0.36 × 0.22	暗褐色土		
104	B3	不整円形	0.58 × 0.54 × 0.21	灰褐色土		
105	B3	円形	0.18 × 0.18 × 0.09	暗褐色土		
106	B3	円形	0.30 × 0.29 × 0.35	灰褐色土		
107	B3	楕円形	0.21 × 0.12 × 0.18	灰褐色土		
108	B2	円形	0.36 × 0.36 × 0.16	暗褐色土		
109	C3	円形	0.25 × 0.24 × 0.11	灰褐色土		
110	C2	円形	0.38 × 0.36 × 0.33	暗褐色土		
111	C2	円形	0.13 × 0.13 × 0.03	暗褐色土		
112	C2	円形	0.21 × 0.20 × 0.08	暗褐色土		
113	B3	不整方形	0.56 × 0.54 × 0.20	黒褐色土(褐色土混入)	獨立2	
114	B2	(円形)	0.20 × (0.11) × 0.26	暗褐色土	SD1 を切る	
115	B2	円形	0.30 × 0.30 × 0.25	暗褐色土	SK13 を切る	
116	C2	円形	0.24 × 0.24 × 0.15	暗褐色土	SK15 を切る	
117	C2	楕円形	0.25 × 0.12 × 0.03	暗褐色土	SK15 を切る	
118	C3	楕円形	0.70 × 0.56 × 0.24	黒褐色土(褐色土混入)	独立2	
119	C2	楕円形	0.25 × 0.11 × 0.17	暗褐色土	SK14 を切る	
120	C2	円形	0.20 × 0.20 × 0.16	褐色土	SK14 を切る	
121	C2	楕円形	0.24 × 0.12 × 0.13	暗褐色土		
122	C1-2	楕円形	0.64 × 0.56 × 0.13	暗褐色土	SK14 に切られる	
123	B1	円形	0.24 × 0.23 × 0.05	褐色土	SBI を切る	
124	B2	円形	0.36 × 0.35 × 0.09	暗褐色土		
125	B2	円形	0.22 × 0.21 × 0.10	暗褐色土		
126	B2	円形	0.24 × 0.22 × 0.24	暗褐色土		
127	B2	楕円形	0.30 × 0.18 × 0.11	灰褐色土	SD1 を切る	
128	D1	円形	0.36 × 0.36 × 0.21	灰褐色土		
129	D2	楕円形	0.24 × 0.16 × 0.08	暗褐色土		
130	D2	楕円形	0.21 × 0.15 × 0.07	暗褐色土		
131	D1	楕円形	0.50 × 0.30 × 0.12	暗褐色土		
132	D2	楕円形	0.52 × 0.31 × 0.10	暗褐色土		
133	D2	円形	0.22 × (0.10) × 0.08	暗褐色土		
134	D4	円形	0.20 × 0.20 × 0.06	暗褐色土		
135	D4	不整円形	0.50 × (0.44) × 0.23	暗褐色土	弥生	
136	D3-4	円形	0.24 × 0.24 × 0.10	暗褐色土		
137	E1-2	楕円形	0.60 × 0.56 × 0.20	灰褐色土		
138	E2	楕円形	0.38 × 0.35 × 0.13	暗褐色土(褐色土混入)		
139	E2	円形	0.36 × 0.36 × 0.19	暗褐色土		
140	E1	円形	0.26 × 0.26 × 0.14	暗褐色土		
141	E2	円形	0.41 × 0.40 × 0.30	暗褐色土		
142	D3	円形	0.48 × 0.48 × 0.26	暗褐色土	弥生	
143	E2	円形	0.40 × 0.39 × 0.22	暗褐色土		
144	D3	円形	0.36 × 0.36 × 0.11	暗褐色土		
145	D2	円形	0.20 × 0.20 × 0.08	暗褐色土		
146	E2	楕円形	0.36 × 0.26 × 0.12	暗褐色土		
147	E1	円形	0.22 × 0.22 × 0.12	暗褐色土		
148	E1	円形	0.18 × 0.18 × 0.10	暗褐色土		
149	F2	円形	0.25 × 0.24 × 0.32	暗褐色土		
150	D3	楕円形	0.40 × 0.20 × 0.16	暗褐色土		
151	F1	円形	0.28 × 0.29 × 0.20	暗褐色土		
152	F1-2	円形	0.16 × 0.16 × 0.06	暗褐色土		
153	F2	円形	0.17 × 0.16 × 0.19	暗褐色土		
154	F1	円形	0.30 × 0.30 × 0.15	暗褐色土		
155	F1	不整円形	0.30 × 0.22 × 0.27	暗褐色土		
156	F1-2	不整楕円形	1.20 × 0.80 × 0.13	灰褐色土	土師	
157	E3	楕円形	0.56 × 0.42 × 0.30	灰褐色土		
158	E3	円形	0.20 × 0.20 × 0.11	暗褐色土		
159	F2	円形	0.30 × 0.30 × 0.16	暗褐色土		
160	D3	円形	0.29 × 0.28 × 0.11	暗褐色土		
161	F4	楕円形	0.36 × 0.18 × 0.09	褐色土	SK11 を切る	
162	F2	円形	(0.24) × (0.16) × 0.09	暗褐色土		
163	F2	(円形)	(0.30) × (0.18) × 0.10	暗褐色土		

(4)

柱穴 (S.P.)	地区	平面形	規格 長径×短径×深さ(m)	土壤	出土遺物	備考
164	F·G2	長方形	(1.05) × 1.05 × 0.36	暗褐色土		
165	G2·3	不整椭円形	0.60 × (0.33) × 0.22	暗褐色土		
166	F2	円形	0.30 × 0.30 × 0.15	暗褐色土		
167	D2·3	稍円形	0.30 × 0.23 × 0.26	暗褐色土	SK9 を切る	
168	E4	円形	0.20 × 0.20 × 0.17	暗褐色土		
169	F2	円形	0.44 × 0.40 × 0.13	暗褐色土		
170	E3	稍円形	0.60 × 0.42 × 0.37	褐色土		
171	E3	円形	0.22 × 0.21 × 0.08	暗褐色土		
172	E3	稍円形	0.42 × 0.28 × 0.22	褐色土		
173	E4	(円形)	0.20 × (0.16) × 0.08	暗褐色土		
174	D3	稍円形	0.36 × 0.24 × 0.02	暗褐色土		
175	E5	稍円形	0.64 × 0.42 × 0.16	暗褐色土		
176	E4	円形	0.20 × 0.19 × 0.14	暗褐色土		
177	D2	円形	0.30 × 0.30 × 0.10	暗褐色土		
178	E4	円形	0.20 × 0.20 × 0.21	暗褐色土		
179	D3	円形	0.24 × 0.24 × 0.15	暗褐色土		
180	E3	稍円形	0.50 × (0.25) × 0.26	暗褐色土	土師	
181	E3	稍円形	0.60 × 0.37 × 0.34	灰褐色土		
182	E3	円形	0.80 × 0.80 × 0.33	暗褐色土		
183	D2	円形	0.50 × 0.50 × 0.22	黑褐色土		
184	D2	稍円形	0.60 × 0.44 × 0.21	暗褐色土		
185	E3	稍円形	0.40 × 0.36 × 0.19	褐色土		
186	D3	不整円形	0.80 × 0.72 × 0.33	灰褐色土		
187	C3	稍円形	0.68 × 0.44 × 0.17	暗褐色土	土師・埴輪	
188	C2	円形	0.60 × 0.60 × 0.14	暗褐色土	SK15 を切る	
189	C2	稍円形	0.30 × 0.26 × 0.23	暗褐色土	SK14 を切る	
190	B4	不整椭円形	0.80 × 0.60 × 0.36	暗褐色土		
191	F·G4	円形	0.60 × 0.60 × 0.20	暗褐色土		
192	F4	稍円形	0.50 × 0.30 × 0.14	暗褐色土	SK11 を切る	
193	F3	稍円形	0.60 × 0.50 × 0.28	褐色土	SK11 を切る	
194	F2	不整円形	0.60 × 0.40 × 0.26	暗褐色土		
195	F2	(円形)	(0.40) × 0.50 × 0.20	灰褐色土		
196	F2	円形	0.30 × 0.29 × 0.38	暗褐色土	掘立 1 (SP242) を切る	
197	F2	稍円形	0.22 × 0.16 × 0.11	暗褐色土		
198	F2	稍円形	0.58 × 0.44 × 0.17	暗褐色土		
199	F1	稍円形	0.56 × 0.48 × 0.20	暗褐色土		
200	F1	円形	0.23 × 0.22 × 0.31	暗褐色土		
201	F1	不整椭円形	0.58 × 0.50 × 0.37	暗褐色土		
202	F1	稍円形	0.30 × 0.24 × 0.44	灰褐色土	土師	
203	E2	円形	0.16 × 0.16 × 0.08	暗褐色土		
204	C4	(稍円形)	(0.60) × 0.36 × 0.21	暗褐色土	弥生	掘立 2 (SP92) に切られる
205	B2	円形	0.24 × 0.24 × 0.28	灰褐色土	陶磁器	
206	E4	稍円形	0.99 × 0.84 × 0.38	暗褐色土		
207	C2·3	円形	0.20 × 0.20 × 0.06	灰褐色土		
208	C3	稍円形	0.45 × 0.30 × 0.22	灰褐色土	SK4 を切る	
209	E2	円形	0.40 × 0.39 × 0.21	暗褐色土		
210	E1 ~ F2	稍円形	0.24 × 0.22 × 0.05	暗褐色土		
211	B1	円形	0.28 × 0.27 × 0.23	暗褐色土		
212	C1	円形	0.24 × 0.24 × 0.20	暗褐色土		
213	C1	円形	0.24 × 0.24 × 0.10	暗褐色土	弥生	
214	C1	稍円形	0.64 × 0.50 × 0.20	暗褐色土		
215	C1	(稍円形)	0.44 × (0.20) × 0.16	暗褐色土		
216	C1	円形	0.20 × 0.19 × 0.17	暗褐色土		
217	C1	円形	0.22 × 0.22 × 0.16	暗褐色土		
218	C1	円形	0.22 × 0.22 × 0.13	暗褐色土		
219	C1	円形	0.20 × 0.20 × 0.18	暗褐色土		
220	C1	円形	0.21 × 0.20 × 0.28	暗褐色土		
221	C·D1	円形	0.20 × 0.19 × 0.06	暗褐色土		
222	D1	稍円形	0.46 × 0.22 × 0.03	暗褐色土		
223	D1	円形	0.16 × 0.16 × 0.08	暗褐色土		
224	D1	円形	0.18 × 0.17 × 0.08	暗褐色土		
225	B1	円形	0.22 × 0.21 × 0.12	暗褐色土		
226	F1	円形	0.30 × 0.30 × 0.18	褐色土		
227	D1	円形	0.20 × 0.19 × 0.08	暗褐色土		
228	B1	円形	0.19 × 0.18 × 0.07	暗褐色土		
229	B1	(円形)	(0.30) × 0.12	暗褐色土	北壁	
230	D3	円形	0.16 × 0.15 × 0.06	暗褐色土		

## 遺構一覧

(5)

柱穴 (S.P.)	地 区	平面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	備 考
231	F3	不整形	0.96 × 0.92 × 0.26	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
232	E-F3	方形	0.83 × 0.79 × 0.37	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
233	F3	方形	0.86 × 0.83 × 0.36	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
234	F3	長方形	0.80 × 0.68 × 0.30	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
235	F-G3	方形	0.72 × 0.70 × 0.22	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
236	G3	長方形	0.72 × 0.60 × 0.27	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
237	G2	不整形	0.90 × 0.82 × 0.32	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
238	F2	方形	0.85 × 0.74 × 0.30	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
239	E-F2	方形	0.71 × 0.70 × 0.32	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
240	B1	円形	0.24 × 0.24 × 0.07	暗褐色土		
241	F2	方形	0.76 × 0.67 × 0.34	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
242	F2	方形	(0.70) × 0.74 × 0.30	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
243	G2-3	長方形	0.76 × 0.59 × 0.26	黒褐色土(黄色土混入)	掘立1	
244	E4	円形	0.30 × 0.26 × 0.15	暗褐色土		
245	A2	楕円形	0.30 × 0.24 × 0.10	褐色土		
246	A2	円形	0.22 × 0.20 × 0.08	褐色土	SD1を切る	
247	A2	楕円形	0.56 × 0.36 × 0.29	褐色土		
248	A2	円形	0.16 × 0.16 × 0.06	暗褐色土		
249	A2	円形	0.16 × 0.15 × 0.06	暗褐色土		
250	R2	(楕円形)	(0.94) × (0.20) × 0.35	灰褐色土		
251	A2-3	(円形)	(0.44) × (0.24) × 0.29	褐色土		
252	A2	円形	0.16 × 0.16 × 0.04	暗褐色土(褐色土混入)		
253	A-B2	円形	0.56 × 0.56 × 0.29	暗褐色土(褐色土混入)		
254	R2	(円形)	(0.40) × (0.20) × 0.26	灰褐色土		
255	A3	(円形)	0.50 × (0.36) × 0.24	暗褐色土(褐色土混入)	SK19に切られる	
256	B3	円形	0.20 × 0.20 × 0.08	灰褐色土		
257	B3	(円形)	(0.50) × (0.12) × 0.19	灰褐色土	SK19を切る	
258	A-B3	円形	0.30 × 0.30 × 0.23	暗褐色土(褐色土混入)		
259	D3	楕円形	0.40 × 0.20 × 0.20	暗褐色土		
260	A3	楕円形	0.56 × 0.44 × 0.22	暗褐色土(褐色土混入)		
261	A-3-4	楕円形	0.36 × 0.30 × 0.18	暗褐色土		
262	B3	楕円形	0.44 × 0.32 × 0.20	灰褐色土		
263	B4	(円形)	0.22 × (0.12) × 0.11	灰褐色土		
264	A2	円形	0.24 × 0.23 × 0.12	灰褐色土		
265	A2	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.18	灰褐色土		
266	A3	(円形)	0.16 × 0.08 × 0.10	暗褐色土		
267	A2	(円形)	(0.08) × (0.04) × 0.04	暗褐色土		
268	A3	楕円形	0.56 × 0.46 × 0.33	暗褐色土		
269	A2	楕円形	0.24 × 0.20 × 0.18	褐色土		
270	A2	楕円形	0.18 × 0.14 × 0.06	暗褐色土		
271	B7	円形	0.13 × 0.13 × 0.06	灰褐色土		
272	B7	(円形)	0.20 × (0.10) × 0.13	暗褐色土		
273	G3	円形	0.20 × 0.20 × 0.18	暗褐色土	掘立1(SP243)に切られる	
274	G2	不整形	0.80 × (0.56) × 0.25	暗褐色土		
275	G2	円形	0.24 × 0.24 × 0.23	暗褐色土		
276	G2	円形	0.24 × 0.23 × 0.17	褐色土		
277	G2	楕円形	0.23 × 0.14 × 0.07	暗褐色土		
278	G3	楕円形	0.28 × 0.24 × 0.42	灰褐色土	掘立1(SP243)を切る	
279	B4	(円形)	(0.56) × 0.20	褐色土	北壁	
280	B4	(円形)	(0.57) × 0.18	褐色土	北壁	
281	B5	(円形)	(0.52) × 0.10	灰褐色土	北壁	
282	E3	円形	0.16 × 0.16 × 0.06	褐色土	SK1を切る	
283	D3	不整形	0.80 × 0.78 × 0.21	黒褐色土(黄色土混入)	掘立2	
284	B1	(円形)	(0.25) × (0.20) × 0.10	黒褐色土	北・西壁	
285	B1	(円形)	(0.15) × 0.13	暗褐色土	西壁	
286	C1	(円形)	(0.18) × 0.14	暗褐色土	西壁	
287	D1	(円形)	(0.24) × 0.10	灰褐色土	西壁	
288	D1	(円形)	(0.25) × 0.11	灰褐色土	西壁	
289	D1	(円形)	(0.68) × 0.27	灰褐色土	西壁	
290	D1	(円形)	(0.34) × 0.18	灰褐色土	西壁	
291	D1	(円形)	(0.76) × 0.16	暗褐色土	西壁	
292	E1	(円形)	(0.25) × 0.12	暗褐色土	西壁	
293	E1	(円形)	(0.25) × 0.25	暗褐色土	西壁	
294	E1	(円形)	(0.25) × 0.07	暗褐色土	西壁	
295	F1	(円形)	(0.25) × 0.15	暗褐色土	西壁	
296	A-B2	円形	(0.76) × (0.60) × 0.10	暗褐色土	SB1を切る	

## 調査の成果と課題

表7 SB1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	触土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	甕	口径 (22.6) 残高 28	貼付口縁。ヘラ沈線文3条あり。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	灰褐色 褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	15
2	甕	口径 (21.2) 残高 29	口縁部より下がった位置に削痕三角削痕の凸 部を輪状、凸部上に削目。口縁端部に削目あり。	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	暗褐色 灰褐色	石・長 (1) 金○		15
3	甕	口径 (26.4) 残高 5.0	折曲口縁。腹部に貼付凸帯1条。凸 部上に布目押痕あり。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	褐色 暗褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	15
4	甕	残高 32	クシ沈線文6条以上あり。	ナデ	ヘラミガキ	暗褐色 褐色	石・長 (1~2) 金○		
5	甕	底径 (9.2) 残高 38	平底。		ヘラミガキ	マメツ	暗褐色 褐色	石・長 (1) 金○	
6	甕	底径 (7.6) 残高 57	上げ底。二次焼成あり。1/4の残存。	マメツ	ナデ	褐色 灰褐色	石・長 (1~3) 金○		
7	壺	口径 (18.9) 残高 45	広口壺。口縁端部は丸い。1/4の残 存。	マメツ	マメツ	灰褐色 灰褐色	石・長 (1~6) 金○		
8	壺	残高 8.0	長頸壺。頭部にヘラ沈線文2条、口縁部 内面に具紋による沈線文と山形文あり。	ハケ(6本/cm)	ヘラミガキ	灰白色 褐色	石・長 (1~3) 金○	黒斑	15
9	壺	残高 4.4	広口壺。ヘラ沈線文5条以上あり。	マメツ	マメツ(ミガキ)	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) 金○		
10	壺	残高 4.4	肩部にヘラ沈線文3条以上あり。	ハケ(12本/cm)	ヘラミガキ	褐色 茶褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	
11	壺	残高 3.9	ヘラ沈線文3条あり。	ナデ	ナデ	褐色 黒褐色	石・長 (1~3) 金○		
12	壺	残高 7.8	肩部にヘラ沈線文2条+山形文2段 あり。	ハケ →ヘラミガキ	ナデ(指頭痕)	黑色 褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	15
13	壺	残高 5.9	M字状の凸帯を貼付。凸帯上に連続状削目 文2段あり。口部の下にヘラ沈線文3条。 (直角は上り)。	マメツ	マメツ	灰褐色 暗褐色	石・長 (1~5) 金○		15
14	壺	残高 10.2	M字状の凸帯を貼付。凸帯上に削 目あり。	マメツ	ヘラミガキ	黄褐色 黄褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	15
15	壺	底径 (9.2) 残高 4.6	わざかに上げ底。1/8の残存。	ヘラミガキ	マメツ	灰褐色 灰褐色	石・長 (1~5) 金○	黒斑	
16	壺	底径 (8.4) 残高 5.5	わざかに上げ底。	マメツ	ヘラミガキ	黄褐色 暗褐色	石・長 (1~2) 金○		15
17	壺	底径 (9.2) 残高 4.9	平底。1/4の残存。	ナデ	ナデ	暗褐色 褐色	石・長 (1~4) 金○		
18	ジョキ	口径 (14.3) 残高 4.2	口縁端部は内傾。小片。	ナデ	ナデ→ミガキ	暗灰褐色 灰褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	
19	鉢	口径 (27.1) 残高 4.1	直口口縁。口縁下に円孔3ヶ(φ 0.5 cm)あり。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長 (1~3) 金○	黒斑	
20	深鉢	残高 3.0	口縁部内面に沈線が巡る。小片。	ミガキ	ミガキ	暗褐色 黑褐色	石・長 (1) 金○		15
21	深鉢	残高 2.4	内湾口縁。口縁端部は内傾。小片。	ナデ	ミガキ	暗褐色 褐色	石・長 (1) 金○		15

表8 SK4出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	触土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
22	甕	口径 (29.2) 残高 4.1	貼付口縁。口縁端部に削目。腹部にヘ ラ沈線文10条+半截竹管文1列あり。	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	暗灰褐色 暗褐色	石・長 (1~2) 金○	黒斑	15
23	甕	口径 (21.1) 残高 1.5	折曲口縁。口縁端部に削目あり。小 片。	ナデ	ヨコナデ	暗褐色 灰褐色	石・長 (1~3) 金○		
24	壺	残高 3.2	肩部に径28cm大の円形浮文あり。	ヘラミガキ	ナデ	褐色 黒褐色	石・長 (1~3) 金○		15
25	壺	残高 4.1	胴部中位にヘラ沈線文4条あり。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	褐色 黒褐色	石・長 (1~2) 金○		

## 遺物観察表

表9 SK14出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
26	壺	口径 (15.4) 残高 8.2	広口壺。口縁部にヘラ沈線文2条あり。 1/4の残存。	◎ヨコナデ ◎ヘラミガキ	◎ヨコナデ ◎ヘラミガキ	灰白色 灰白色	石・長(1~5) 金○		15

表10 SK18出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
27	壺	口径 (25.4) 残高 3.2	貼付口縁。口縁端部に割目、脚部に ヘラ沈線文5条以上あり。小片。	ナデ	ナデ ---ヘラミガキ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		

表11 摂立1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
28	坏蓋	口径 (12.2) 残高 2.3	口径端部は丸く仕上げる。1/5の残存。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ		青灰色 青灰色	密	SP9018 SP239	
29	坏蓋	口径 (13.0) 残高 2.7	口縁端部は下方に屈曲し、口縁端部は 丸く仕上げる。小片。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ		青灰色 青灰色	密	SP232	
30	坏身	口径 (12.3) 残高 2.7	たちあがりは低く内傾し、端部は尖 り気味。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP234	
31	坏身	残高 2.4	たちあがりは一部欠損。受部は上外 方に覆ぐるびる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP237	
32	坏身	口径 (13.4) 残高 2.3	たちあがりは一部欠損。受部は上外 方に覆ぐるびる。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP235	
33	壺	口径 (13.4) 残高 2.7	外輪する口縁部。口縁端部は丸い。 小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP239	
34	高坏	底径 (10.2) 残高 2.9	脚部は下方に屈曲し、柱部に透か しを看取。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密	SP9018 SP235	
35	壺	底径 (13.0) 残高 3.4	脚部の脚部。脚端部は平坦面をな す。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP231	
36	壺	口径 (23.2) 残高 4.2	口縁部は方形状に肥厚。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密	SP239	
37	壺	口径 (21.2) 残高 3.1	内渦口縁。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1) 金○	SP233	16
38	壺	口径 (20.6) 残高 2.4	内渦口縁。口縁端部は内傾し、端部 はやや肥厚する。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) 金○	SP238	16
39	高坏	残高 4.4	脚部片。	マメツ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	SP232	16
40	壺	口径 (26.0) 残高 8.0	折曲口縁。口縁端部に割目、脚部に ヘラ沈線文8条と刺突文1列あり。	マメツ	ヘラミガキ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	SP239	

表12 摂立1出土遺物観察表 装身具

番号	器種	残 存	材質	色	法 量			備 考	図版
					直 径(cm)	高 底(cm)	重 量(g)		
41	白玉	完形	滑石	灰色	0.90	0.13	0.12	SP234	16
42	白玉	1/2	滑石	灰色	0.90	0.09	0.03	SP234	

表13 摂立2出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
43	坏蓋	口径 (11.9) 残高 2.7	断面三角形状の縁をもち、口縁端部 は内傾する。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密		SP82
44	蓋	口径 (11.5) 残高 3.4	規則の蓋。口縁部は外反気味に屈 曲し、端部は丸い。小片。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ		灰白色 灰白色	密	SP66	
45	壺	口径 (17.4) 残高 2.9	口縁端部は「コ」字状をな す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密		SP82
46	壺	口径 (16.6) 残高 3.8	広口壺。口縁部内面に貼付凸帯1条 あり。	◎ヨコナデ ◎ヘラミガキ ◎ハケ→1ガキ	◎ヨコナデ ◎ヘラミガキ ◎ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) 金○		SP118

## 調査の成果と課題

表 14 SD2 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	団版
				外 面	内 面				
47	环盖	口径 (12.0) 残高 27	口縁端部は尖り気味。小片。 ⑤回転ヘラケズリ ⑥回転ナデ			青灰色 灰黑色	密 ○		
48	环身	残高 15	たちあがりは内傾し、受部は上方に ひねり出されている。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密 ○		
49	环身	残高 26	たちあがりは内傾し、受部は上外方 に短くのびる。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 暗灰色	密 ○		

表 15 SK2 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	団版
				外 面	内 面				
50	环蓋	口径 (11.8) 残高 3.7	断面三角形状の鋭い棱をもち、口縁 端部は内傾する凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
51	高环	底径 (10.1) 残高 20	脚端部は丸味を帯び、柱部に透かし を看取る。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ○	自然釉 有着	

表 16 SK19 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	団版
				外 面	内 面				
52	环身	口径 (10.8) 残高 2.7	たちあがりは内傾し、端部は尖り気味に 丸い。受部端は沈澱状の凹みあり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
53	环身	残高 21	たちあがり端部は欠損。受部は短く 水平にのびる。1/6の残存。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		

表 17 SD1 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	団版
				外 面	内 面				
54	甕	口径 (20.2) 残高 26	内湾口縁。口縁端部は内傾。頭部内 面に棱をもつ。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	石・長 (1 ~ 2) ○		
55	皿	底径 (6.3) 残高 13	小片。口縁部を欠損。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	石・長 (1) ○		
56	坏蓋	つまみ径 つまみ高 0.5 残高 13	中央部が突出するつまみ。1/4の残 存。	②回転ナデ ⑤回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
57	坏蓋	残高 11	口縁部は上方に垂下し、口縁端部は 尖り気味に丸い。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
58	坏蓋	残高 17	口縁端部は内傾する凹面をなす。小 片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
59	坏蓋	残高 24	断面三角形状の鋭い棱あり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ○		
60	坏身	残高 23	たちあがりは低く内傾し、たちあが り端部は尖る。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
61	甕	残高 25	肩部。	格子叩き	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		

表 18 SD3 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	団版
				外 面	内 面				
62	坏	口径 (11.2) 残高 3.1	外傾する口縁部。体部下半にわざか に棱をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	砂粒 ○		
63	坏	底径 6.0 残高 15	体部はやや内傾し、底部の切離しは 回転糸切り技法による。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	石・長 (1) ○		
64	羽釜	残高 31	水平にのびる筋をもち、端部は丸い。	ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長 (1 ~ 2) ○	備付着	16
65	土釜	残高 31	三足付土釜の脚部。断面円形。	ナデ	—	茶褐色	石・長 (1 ~ 2) ○		
66	擂钵	口径 (32.2) 残高 6.9	口縁端部は内傾する面をもつ。	マメツ	マメツ	灰褐色 灰褐色	密 ○		16
67	擂钵	口径 (29.6) 残高 4.9	擂前焼。口縁部は直立気味に立ち上 がり、口縁端部は尖り気味。	回転ナデ	回転ナデ	暗褐色 褐色	密 ○		16
68	鉢	残高 4.7	擂前焼。片口鉢の口部。1/2の残 存。	回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐色 暗赤褐色	密 ○	自然釉 有着	16

## 遺物観察表

SD3出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
69	平丸	長さ 幅 厚さ 6.5 5.2 1.7	土師質。	ナデ	ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ○		
70	平丸	長さ 幅 厚さ 13.0 10.3 1.6	土師質。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ○		

表19 柱穴出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
71	甕	口径 残高 (23.9) 6.7	折曲口縁。小片。	マメツ(ハクリ)	マメツ	灰褐色 褐色	石・長(1~5) ○	黒斑 SP72	
72	甕	残高 3.3	折曲口縁。胴部にクシ沈綴文6条以上あり。小片。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	SP135	
73	甕	残高 4.8	頭部下。クシ沈綴文12条以上あり。	マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2) ○	SP142	
74	甕	残高 3.4	M字形の凸部を貼付台、凸部上に連續状斜目文あり。ヘラミガキ文1条以上あり。16の残存。	ナデ	ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	SP72	
75	甕	残高 11.9	胴部に1~2行沈綴文1条と斜文文1列。胴部中央にヘラミガキ文1条と斜文文1列あり。16の残存。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○	SP135 16	
76	甕	残高 5.5	貼付凸帯1条、凸帯上に押圧を施す。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○	SP213	
77	甕	底径 残高 7.6 23.1	上げ底の底部。	ハケ →ヘラミガキ	ヘラミガキ	茶褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑 SP69	16
78	蓋	つぶ群 残高 4.9 5.2	中央部が凹むつまみ。	②ナデ ③ヘラミガキ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~5) ○	黒斑 SP204	
79	蓋	口径 (12.0) 残高 19	蓋の裏。径0.4cmの孔を2ヶ所に穿つ。小片。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	SP72	16
80	甕	底径 残高 7.6 35	やや上げ底。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑 SP213	
81	甕	底径 残高 (9.0) 33	やや上げ底。	マメツ(ミガキ)	マメツ	茶褐色 黄褐色	石・長(1) ○	黒斑 SP8	
82	土釜	口径 (20.2)	口唇部よりやや下がった位置に粘土帶を貼付け。小片。	ヨコナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○	SP202	
83	土釜	10.9	三足付土釜。底部はやや丸味を帯び、脚部断面形は円錐形を呈する。	ナデ	ナデ	暗褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○	保付者 SP156	16
84	甕	口径 (26.6) 残高 5.1	外反口縁。口縁中位に割込みをもつ。小片。	ヨコナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○	SP180	
85	环身	55.6 (10.3)	たちあがり端部は内傾し、受部は上方に強くのびる。1/8の残存。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	SP62	
86	环身	55.6 (11.7)	たちあがり端部は内傾し、端部は尖る。受部端に沈綴状の凹みあり。1/6の残存。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	SP91	
87	环身	32	たちあがり端部は欠損。受部は上外方に広がる。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 褐色	密 ○	SP187	
88	碗	残高 34	青釉碗。表面及び底部内面に唐草文あり。緑色釉薬。	④回転ナデ ⑤回転ヘラミガキ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	SP205	17

表20 第IV層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
89	甕	口径 (25.4) 残高 7.9	貼付口縁。胴部にクシ沈綴文10条と刺突文2列あり。小片。	①ヨコナデ ②ハケ→ヘラミガキ	①ナデ ③ヘラミガキ	褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○		17
90	甕	口径 (29.0) 残高 3.5	貼付口縁。胴部にクシ沈綴文8条あり。	①ヨコナデ ②ハケ	①ナデ ③ヘラミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
91	甕	口径 (23.3) 残高 3.8	折曲口縁。口縁端部に削目あり。	①ヨコナデ ②ヘラミガキ	①ナデ ③ヘラミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
92	甕	口径 (43.6) 残高 6.0	大型器。貼付口縁。口唇部よりやや下がった位置に粘土縁を貼付け、口縁端部に削目あり。小片。	①ヨコナデ ②ヘラミガキ	マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○		

## 調査の成果と課題

第IV層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
93	甕	口径 (33.0) 残高 10.4	大盤口。貼付口縁。口縁端部に削目、剥離部にテクスチャ文(朱+山形文)2箇所+ランダム文2箇所+刻文2箇所。	①ヨコナデ ②ヘラミガキ	①ナデ ②ヘラミガキ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	17
94	甕	口径 (14.4) 残高 3.7	広口甕。頭部にヘラ沈文1条あり。	①ヨコナデ ②ヘラミガキ	ヘラミガキ	暗灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
95	甕	口径 7.4 残高 7.4	口縁部を欠損。底部は丸底。	①ヘラミガキ ②ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	砂粒 ○	黒斑	17
96	坏	口径 28 底径 50 高さ 20	土師器。体部は内済し、口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	砂粒 ○		17
97	瓶	残高 4.5	把手部。断面格円形。	ナデ	—	褐色	石・長(1~5) ○		
98	纺錘車	受部径 25 送部径 42 高さ 26	台形状。径0.6cm大の孔あり。	ナデ	—	茶褐色	石・長(1) ○		17
99	坏蓋	口径 (11.8) 残高 33	断面三角形状の鋭い棱あり。口縁端部は内傾する。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 暗灰色	青 ○		
100	坏蓋	口径 (11.2) 残高 26	口縁端部は内傾し、凹線状の凹みがある。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		
101	坏身	口径 (10.8) 残高 28	たちあがり壺部は内傾し、受部端に沈線状の凹みあり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	青 ○		
102	坏身	口径 (10.8) 残高 20	たちあがりは低く内傾し、端部は突出する。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	青 ○		
103	高坏	底径 4.3 残高 4.3	脚部は下方方に屈曲し、柱部に透かしを看取る。L5の残存。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		
104	高坏	底径 6.1 残高 6.1	柱部に三方向の透かしを看取る。L4の残存。	回転ナデ ②回転カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○		
105	甕	口径 4.2	直口甕。小片。	①回転ナデ ②回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		
106	甕	口径 7.1	肩部に沈文2条と刻突点文あり。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	青 ○		17
107	器台	口径 4.9 残高 4.9	脚部部。波状文2段あり。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		17

表21 第IV層出土遺物観察表 銭貨

番号	銭名	初鑄年	銭径(mm)	孔径(mm)	外縁厚(mm)	内縁厚(mm)	重量(g)	備考	図版
108	皇宋通寶	1039年	240	0.65	0.10	0.09	201		17

表22 地点不明出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
109	坏蓋	口径 (11.4) 残高 3.2	断面三角形状の鋭い棱あり。口縁端部は内傾する。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰色	青 ○		
110	坏蓋	口径 (12.2) 残高 3.8	断面三角形状の棱をもち、口縁端部は内傾する。小片。	①回転ヘラケズリ ②回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	青 ○		
111	坏蓋	口径 (12.3) 残高 2.6	口縁端部は尖り気味に丸い。小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		
112	坏身	口径 (11.8) 残高 1.5	たちあがりは短く内傾し、端部は尖る。L6の残存。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	青 ○		
113	高坏	底径 (8.2) 残高 2.0	脚部は下方方に屈曲し、柱部に凸輪1条が巡る。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	青 ○		
114	甕	口径 5.1 残高 5.1	頭肩部片。	①回転ナデ ②平行叩き	回転ナデ 筋内弧叩き	青灰色 青灰色	青 ○		

表23 地点不明出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
115	石鏡	ほぼ完形	サヌカイト	270	1.65	0.30	108	打製	17
116	石鏡	4/5	赤色珪質岩	275	(210)	0.48	237		17

# 写真図版

## 写真図版データ

1. 遺構は、主な状況については、 $4 \times 5$  判や  $6 \times 7$  判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、 $35\text{mm}$  判フィルムカメラで補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カ メ ラ	トヨフィールド 45A	レ ン ズ	スーパー・アンギュロン 90mm 他
	アサヒペンタックス 67		ペンタックス 67 55mm 他
	ニコンニュー FM 2		ズームニッコール 28 ~ 85mm 他
フ ィ ル ム	白 黒 ネオパン SS・アクロス		

2. 遺物は、 $4 \times 5$  判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材：

カ メ ラ	トヨビュードラマ 45G
レ ン ズ	ジンマー S 240mm F 5.6 他
ストロボ	コメット /CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウェイトスタンド 101
フ ィ ル ム	ネオパンアクロス

3. 単色図版は、一部を除き、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引 伸 機	ラッキー 450MD・90MS
レ ン ズ	エル・ニッコール 135mm F5.6A・50mm F2.8N
印 画 紙	イルフォードマルチグレードIV RC ペーパー

4. 製 版：写真図版 175 線

印 刷：オフセット印刷

用 紙：マットコート 76.5kg

【参考】『埋文写真研究』vol.1 ~ 20・『報告書制作ガイド』『文化財写真研究』vol.1 ~ 5

【大西 朋子】



1. 調査前全景  
(北東より)



2. 表土掘削状況  
(北より)



3. 作業風景 (西より)



1. 東壁土層（西より）



2. 遺構検出状況（西より）



1. 造構完掘状況① (北西より)



1. 遺構完掘状況②（西より）



2. SB 1 完掘状況（北東より）



1. SB 1 遺物出土状況  
(南東より)



2. SK 4 完掘状況  
(南より)



3. SK 4 遺物出土状況  
(南西より)

図版  
6



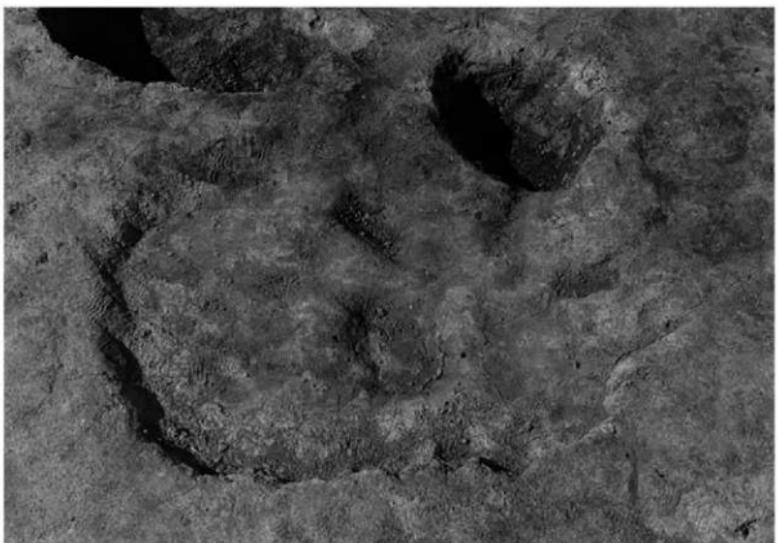
1. SK 14・15 完掘状況（南より）



2. SK 3・9 完掘状況（南より）



1. SK 12 完掘状況（南より）



2. SK 16 完掘状況（南より）



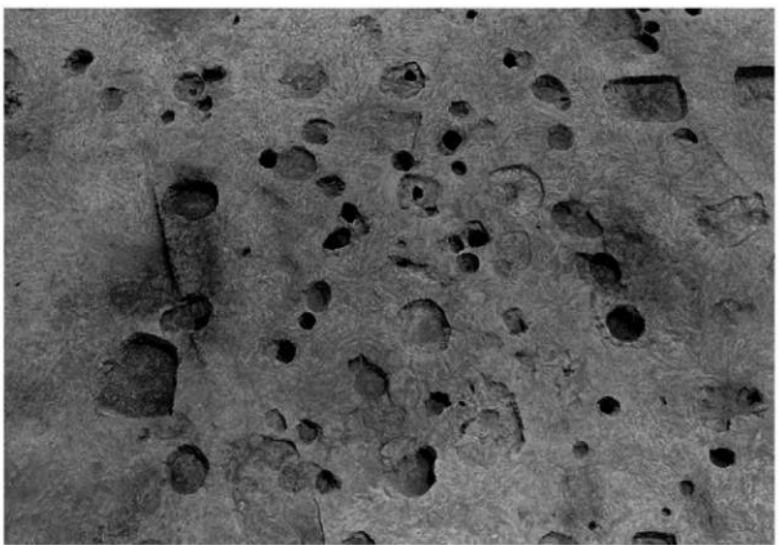
1. SK 13 完掘状況（南より）



2. 捜立 1 完掘状況（北西より）



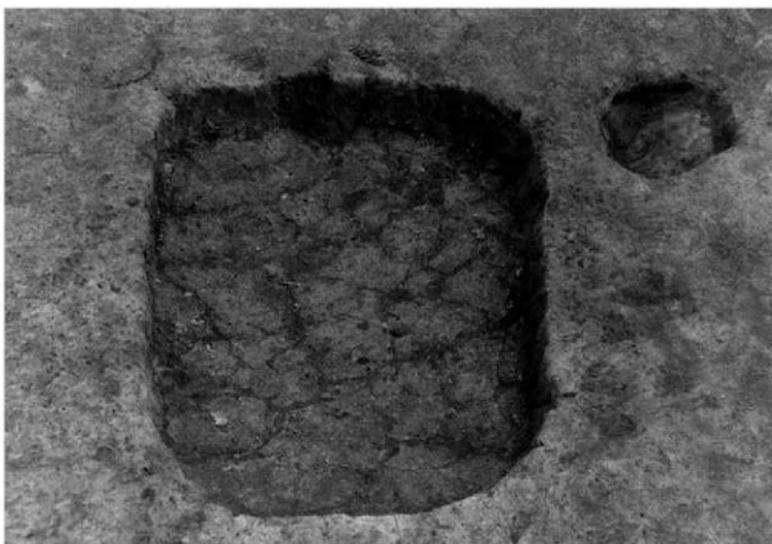
1. 掘立 1 SP 233 遺物出土状況（北東より）



2. 掘立 2 完掘状況（北東より）



1. SD 2 完掘状況（南より）



2. SK 2 完掘状況（北より）



1. SK 1・6 完掘状況（北東より）



2. SK 7 完掘状況（北東より）

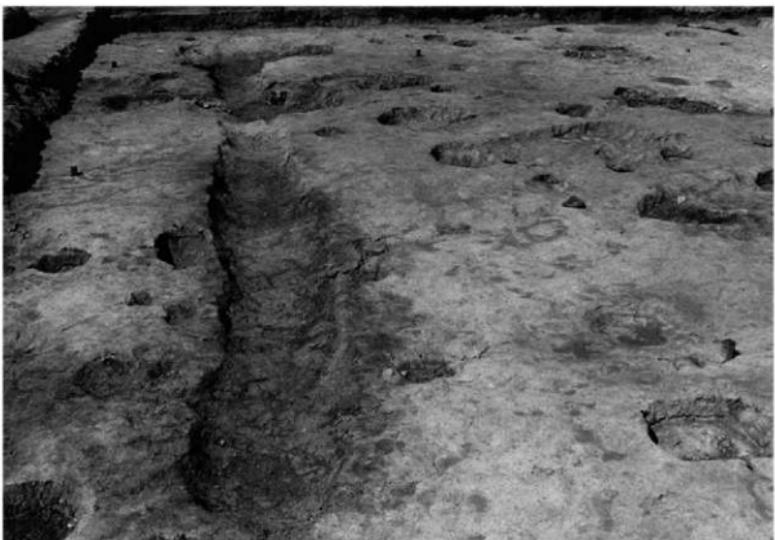
図  
版  
12



1. SK 5・10・11 完掘状況（東より）



2. SK 8 完掘状況（北より）



1. SD 1 完掘状況（南より）



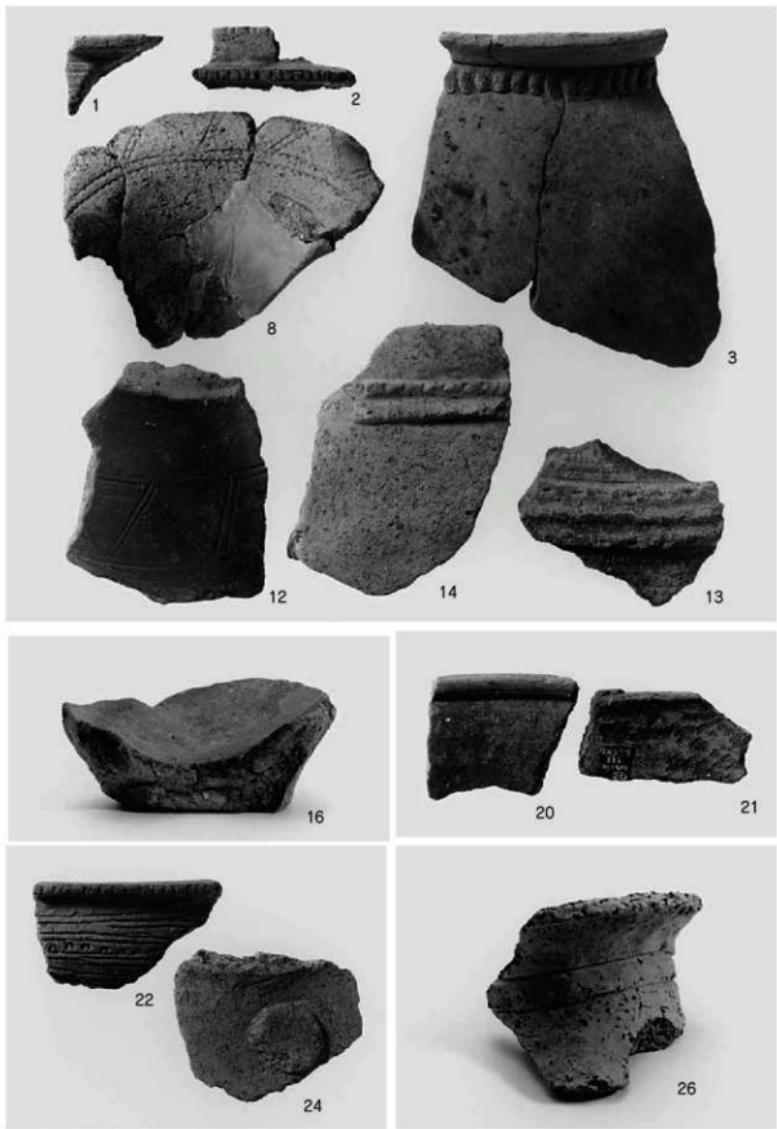
2. SD 3 完掘状況（南より）



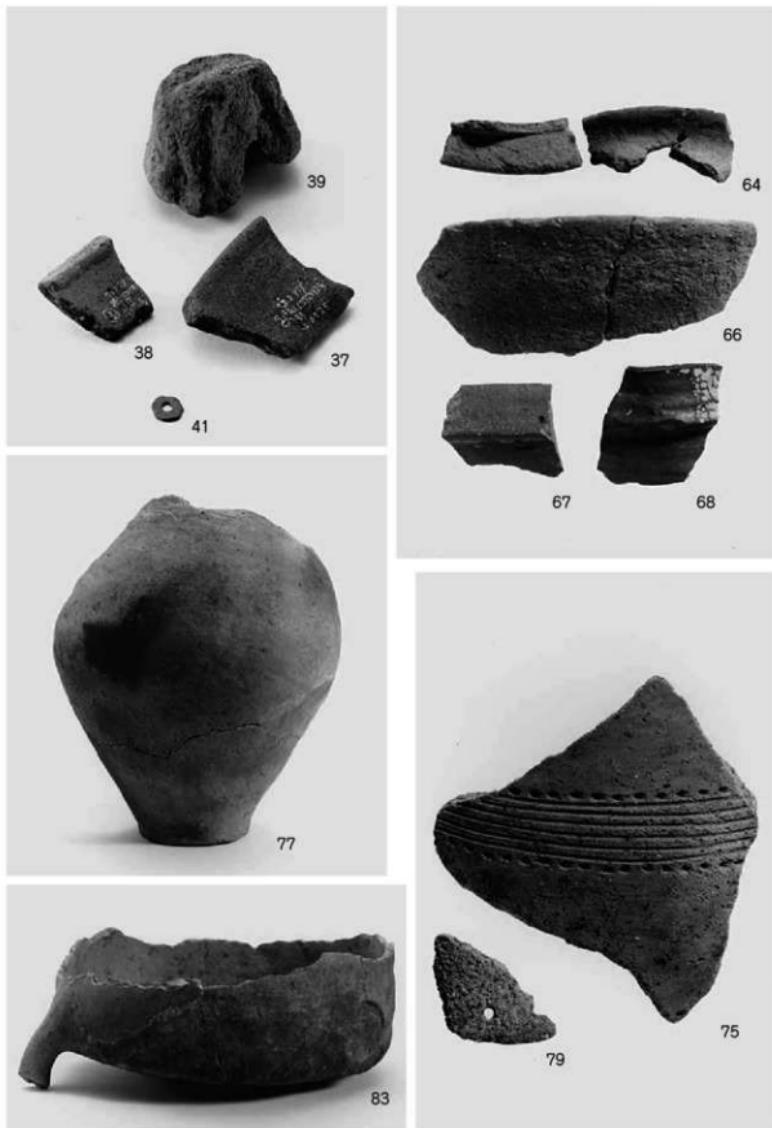
1. SD 3 遺物出土状況①（南より）



2. SD 3 遺物出土状況②（東より）

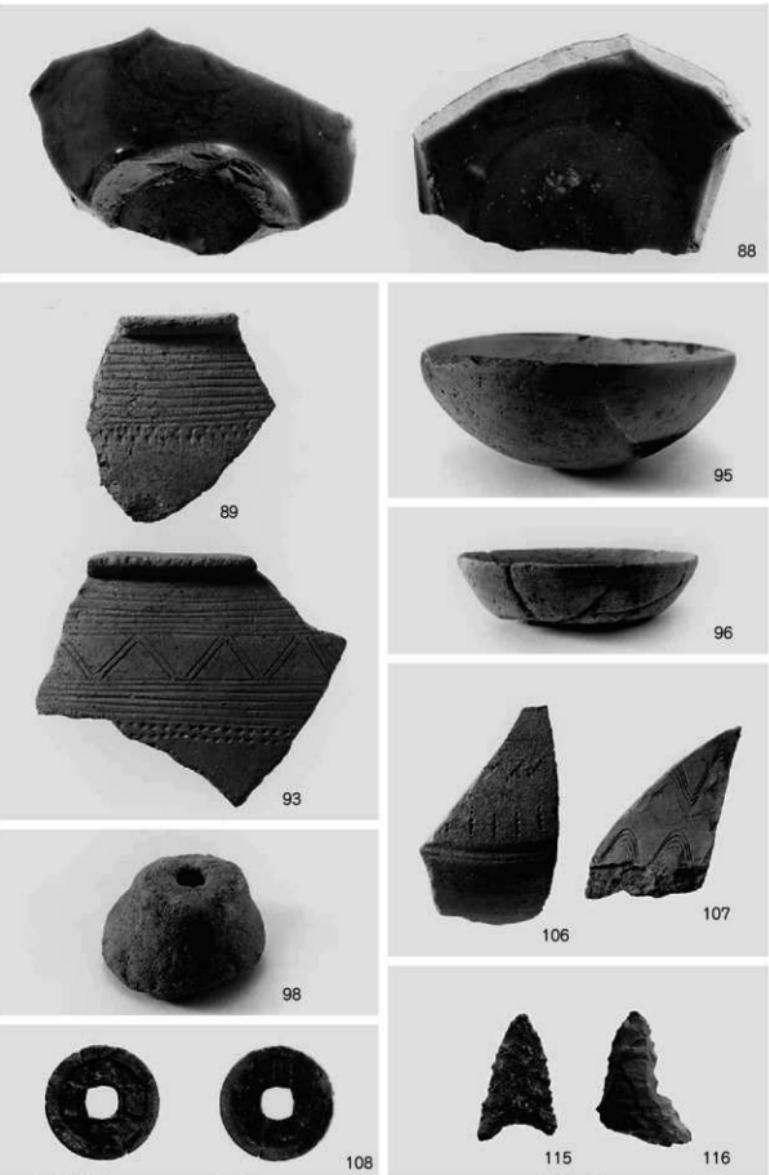


1. 出土遺物 (SB1 : 1 ~ 3・8・12 ~ 14・16・20・21、SK4 : 22・24、SK14 : 26)



1. 出土遺物 (掘立 1:37~39・41、SD3:64・66~68、SP135:75、SP69:77、SP72:79、  
SP156:83)

図  
版  
17



1. 出土遺物 (SP205 : 88、第IV層 : 89・93・95・96・98・106～108、地点不明 : 115・116)



## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	くめさいかちいせき
書名	久米才歩行遺跡 7次調査
副書名	
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第175集
編著者名	水本 完児・大西 朋子
編集機関	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6 TEL 089-923-6363
発行年月日	西暦 2015(平成27)年3月13日

ふ り が な 所 取 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コード 市町村 道番号	北 緯 度	東 經 度	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所 收 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
久米才歩行遺跡 7次調査	集落	縄文 弥生 古墳 古代 中世	縄穴・土坑 掘立柱建物・溝・土坑 溝 溝	縄文土器 弥生土器・石器 土師器・須恵器・臼玉 土師器・須恵器・錢貨 土師器・須恵器・陶磁器・瓦			弥生前末期の縄穴建物を検出
要 約	久米才歩行遺跡7次調査からは、縄文時代から中世に至る遺構や遺物を確認した。縄文時代の遺構は未検出であるが、弥生時代の遺構堆土中より晚期の土器片が数点出土した。弥生時代では、松山平野内でも検出事例の極めて少ない前期の縄穴建物を検出した。縄円形の建物址で前期末に時期比定される土器片が数多く出土した。また、同時期の土坑10基も確認されている。古墳時代では、後期の掘立柱建物2棟と溝1条、土坑10基を検出した。周辺の調査においても、弥生時代前期や古墳時代後期の遺構が検出されており、該期には遺跡一帯に集落の存在していたことがわかる。また、古代や中世では南北方向に延びる溝を検出した。両者は真北方向を指向しており、何らかの施設に伴う溝の可能性がある。今回の調査では、これまでに久米才歩行遺跡として実施した、調査成果を補足する結果となり、久米官衙遺跡が展開する宋住台地西方域における集落様相や変遷を解明するうえで、貴重な追加資料を得ることができた。						

松山市文化財調査報告書 第175集

## 久米才歩行遺跡 - 7次調査 -

---

平成27年3月13日 発行

編集 公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
発行 埋蔵文化財センター  
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6  
TEL (089) 923-6363

松山市教育委員会  
〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1  
TEL (089) 948-6605

印刷 平和印刷工業株式会社  
〒790-0921 松山市福音寺町728番地  
TEL (089) 947-9155㈹

---